

## 第2章 こども・若者と子育て家庭を 取り巻く富士宮市の現状



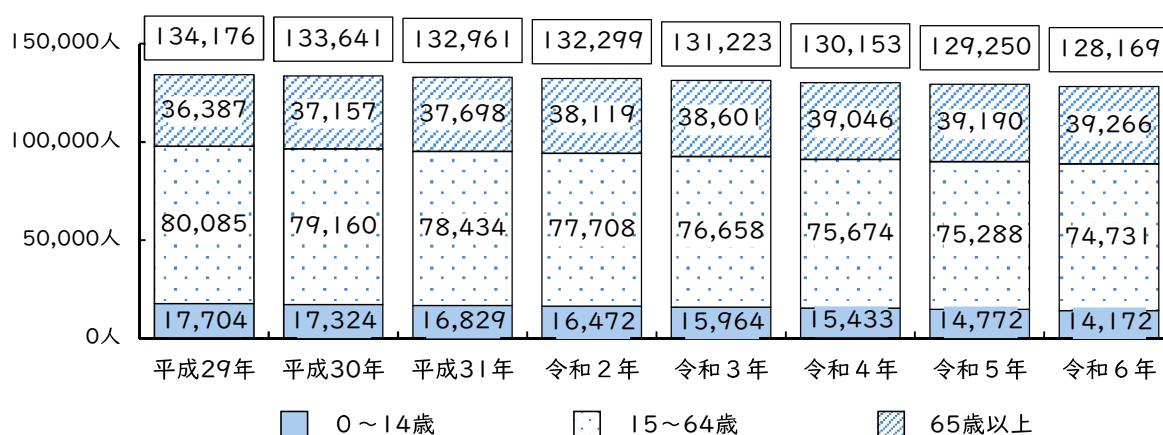
## 第2章 こども・若者と子育て家庭を取り巻く富士宮市の現状

### 1 統計データからみた富士宮市の現状

#### (1) 人口・世帯等の状況

##### ①総人口・年齢3区分別人口

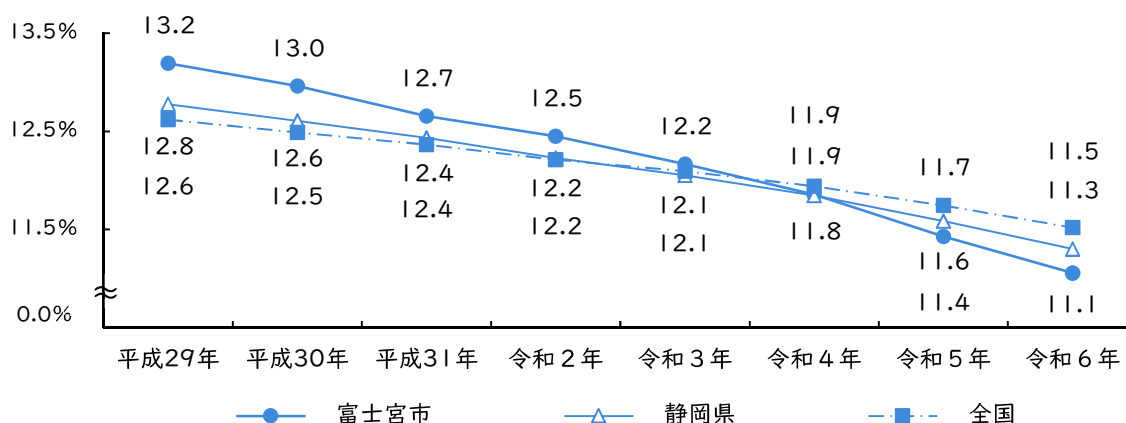
令和6年の総人口は128,169人で、内訳は「0～14歳」が14,172人、「15～64歳」が74,731人、「65歳以上」が39,266人となっています。平成29年からの推移をみると、総人口は減少傾向にあります。年齢3区分別にみると、「0～14歳」、「15～64歳」は減少傾向、「65歳以上」は増加傾向にあります。



資料：「総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）

##### ②年少人口（15歳未満）割合の比較

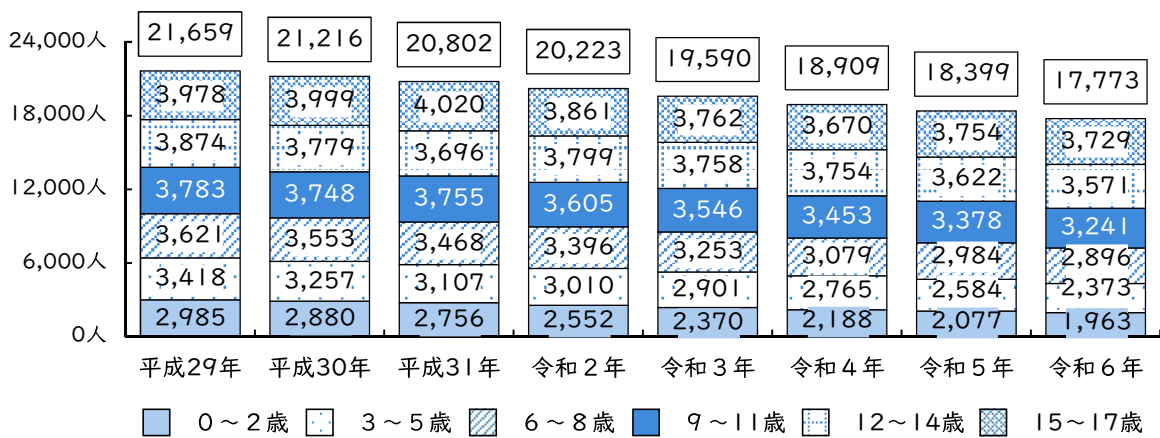
令和6年の富士宮市の年少人口割合は、11.1%となっています。静岡県や全国と比較すると、ほぼ同じ水準であることがわかります。平成29年からの推移をみると、いずれも低下傾向にあるものの、平成29年から令和6年にかけて最も低下しているのは富士宮市で、7年間で2.1ポイント低下しています。



資料：「総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）

### ③18歳未満人口の推移

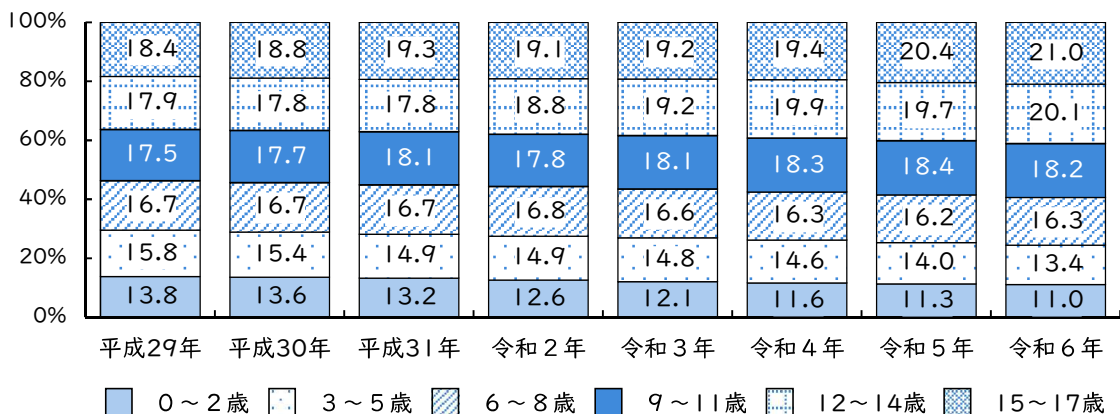
令和6年の18歳未満人口は17,773人で、内訳は「15～17歳」が3,729人と最も多く、次いで「12～14歳」が3,571人、「9～11歳」が3,241人などとなっています。平成29年からの推移をみると、18歳未満人口は減少傾向にあります。年齢区別にみると、すべての年齢区分において減少傾向にあるものの、特に「0～2歳」、「3～5歳」の減少幅が大きく、平成29年からの7年間で1,000人以上減少しています。



資料：「総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）

### ④年齢区別18歳未満人口割合の推移

令和6年の18歳未満人口割合を年齢区別にみると、「15～17歳」が21.0%と最も多く、次いで「12～14歳」が20.1%、「9～11歳」が18.2%などとなっています。平成29年からの推移をみると、「0～2歳」、「3～5歳」は低下傾向、「6～8歳」、「9～11歳」は横ばい傾向、「12～14歳」、「15～17歳」は上昇傾向にあります。

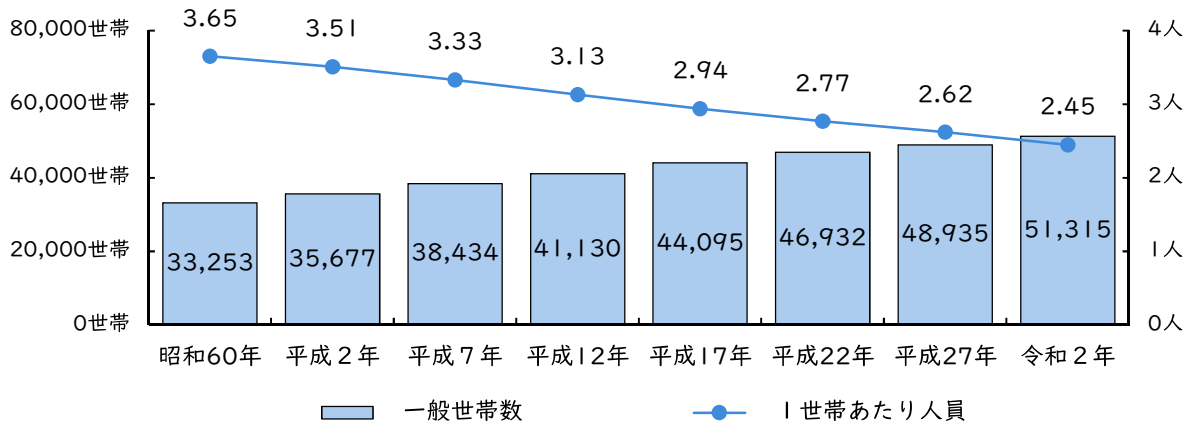


資料：「総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年1月1日時点）



### ⑤一般世帯数・1世帯あたり人員の推移

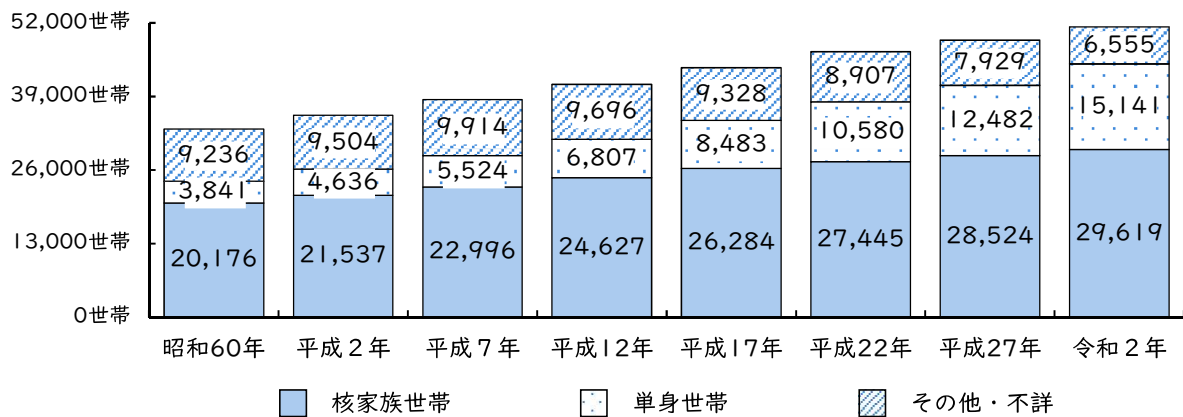
令和2年の一般世帯数は51,315世帯、1世帯あたり人員は2.45人となっています。昭和60年からの推移をみると、一般世帯数は増加傾向、1世帯あたり人員は減少傾向にあります。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ⑥家族類型別一般世帯数の推移

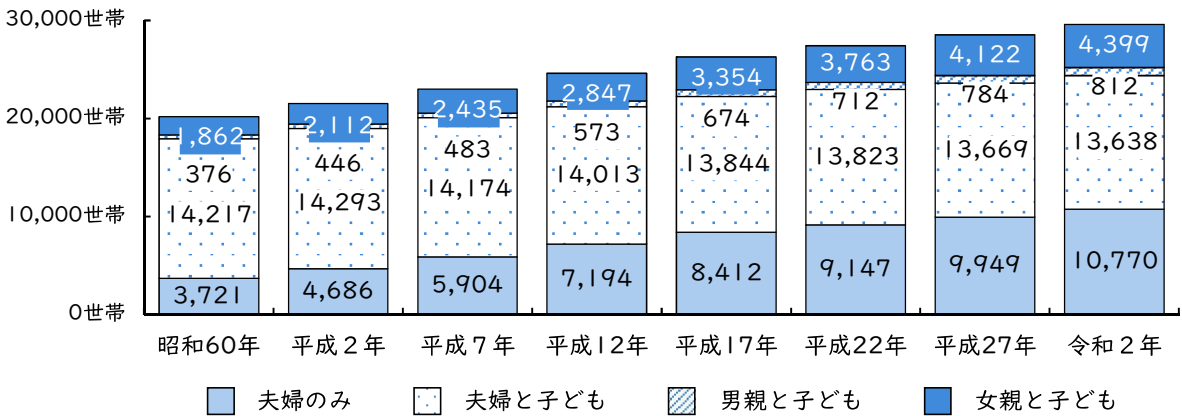
令和2年の一般世帯数を家族類型別にみると、「核家族世帯」が29,619世帯、「単身世帯」が15,141世帯、「その他・不詳」が6,555世帯となっています。昭和60年からの推移をみると、「核家族世帯」、「単身世帯」は増加傾向、「その他・不詳」は減少傾向にあります。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ⑦家族類型別核家族世帯数の推移

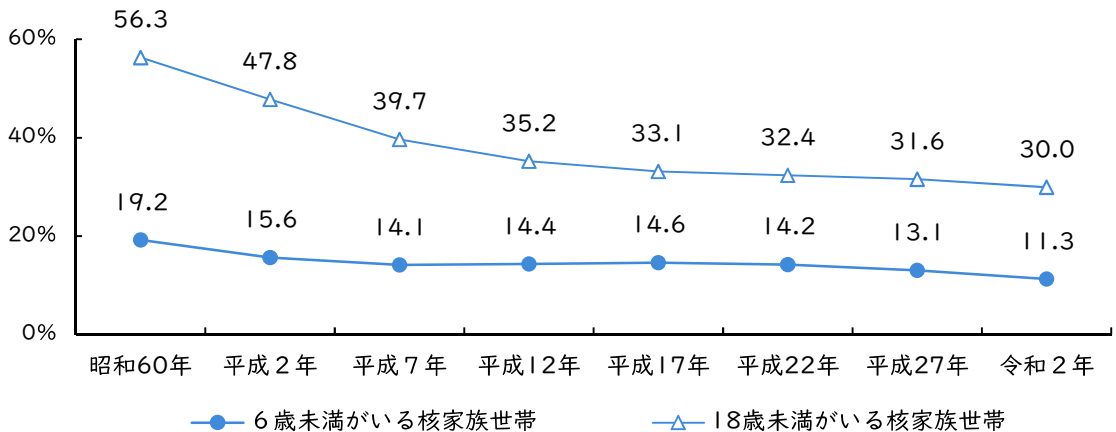
令和2年の核家族世帯数を家族類型別にみると、「夫婦のみ」が10,770世帯、「夫婦と子ども」が13,638世帯、「女親と子ども」が4,399世帯、「男親と子ども」が812世帯となっています。昭和60年からの推移をみると、「夫婦と子ども」を除く家族類型において増加傾向にあるものの、特に「夫婦のみ」の増加幅が大きく、昭和60年からの35年間で3倍近くまで増加しています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ⑧6歳未満・18歳未満がいる核家族世帯割合の推移

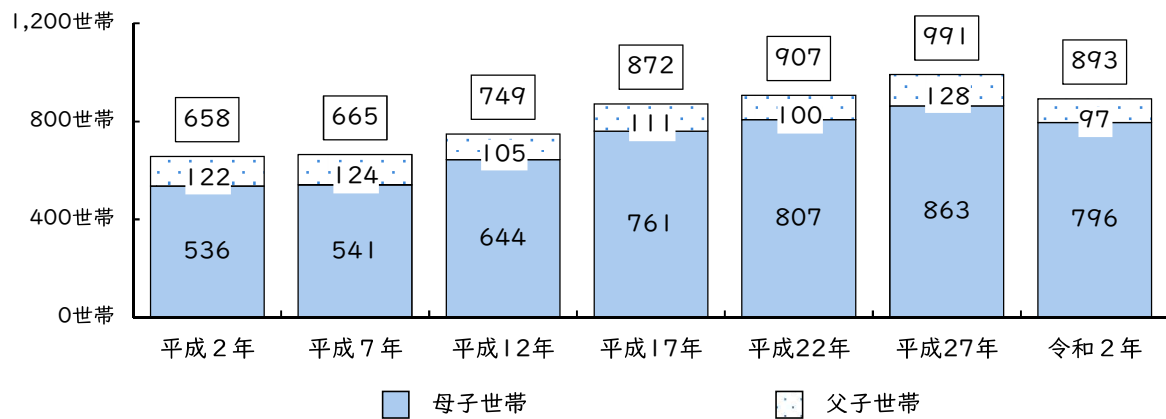
令和2年の6歳未満がいる核家族世帯割合は11.3%、18歳未満がいる核家族世帯割合は30.0%となっています。昭和60年からの推移をみると、いずれも低下傾向にあるものの、特に18歳未満がいる核家族世帯割合の低下幅が大きく、昭和60年からの35年間で半分近くまで低下しています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ⑨ひとり親世帯数の推移

令和2年のひとり親世帯数は893世帯で、内訳は「母子世帯」が796世帯、「父子世帯」が97世帯となっています。平成2年からの推移をみると、ひとり親世帯数は平成27年まで増加傾向にあったものの、令和2年に減少に転じています。ひとり親世帯の種類別にみると、「母子世帯」が全体の8～9割を占める傾向が続いており、「母子世帯」の増減がひとり親世帯数の増減につながっています。「父子世帯」は多少の増減はあるものの、110世帯前後で推移することが多くなっています。



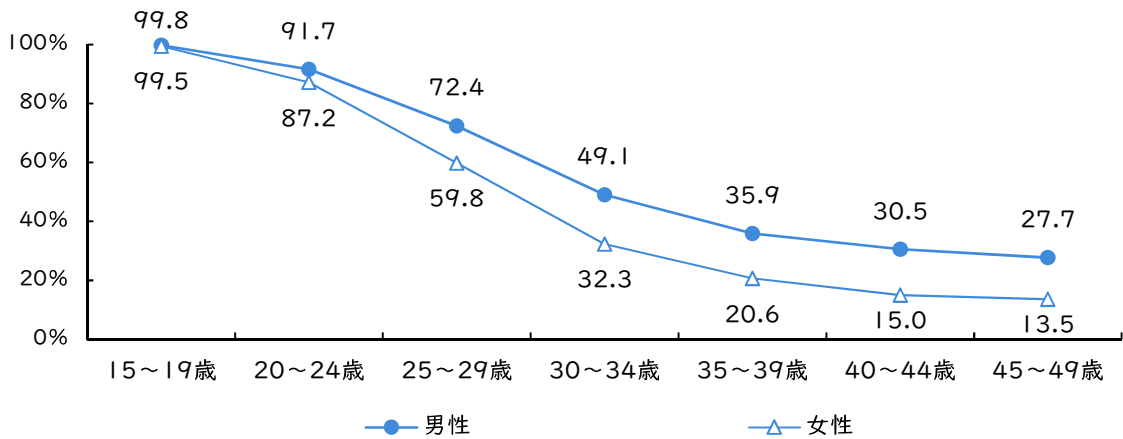
※ここでの「母子世帯」、「父子世帯」は、核家族世帯のうち未婚・死別・離別の女親又は男親とその未婚の20歳未満の子供のみから成る一般世帯のこと。

資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

(2) 結婚・出生の状況

①性別・年齢区分別未婚率（令和2年）

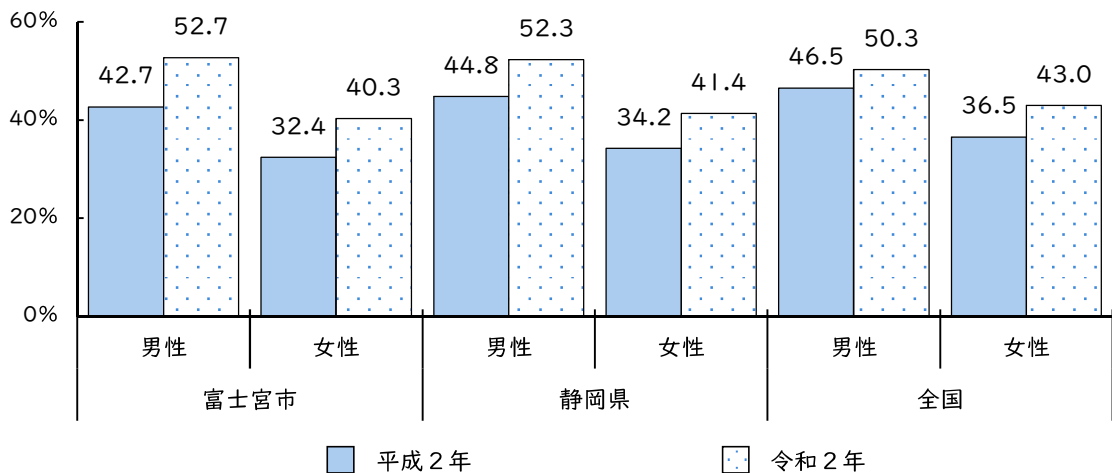
令和2年の未婚率を性別・年齢区分別にみると、すべての年齢区分において「男性」が「女性」より高く、男女ともに年齢が高くなるほど低くなっています。20代前半までは性別による差がそれほどみられないものの、20代後半から性別による差が大きくなり、30代前半では16.8ポイントの差がみられます。



資料：「国勢調査」（令和2年10月1日時点）※未婚率とは、15歳以上人口に占める未婚者の割合のこと。

②性別未婚率の推移

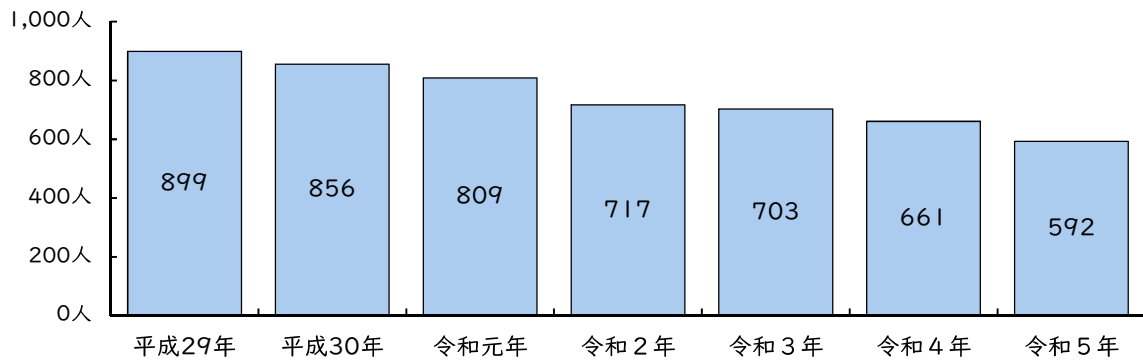
令和2年の富士宮市の未婚率を性別にみると、「男性」が52.7%、「女性」が40.3%となっています。静岡県や全国と比較すると、「男性」は全国よりやや高い水準、静岡県とほぼ同様の水準で、「女性」はやや低い水準であることがわかります。平成2年と比較すると、男女ともに上昇しています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ③出生数の推移

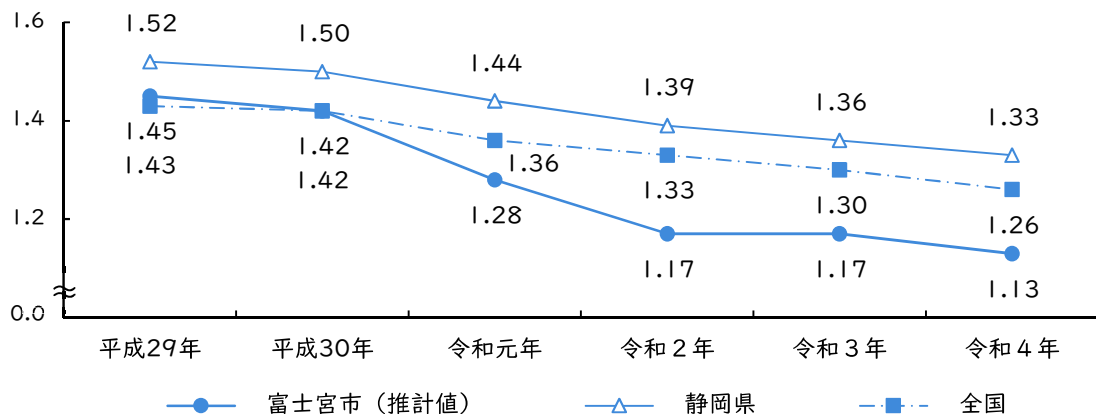
令和5年の出生数は、592人となっています。平成29年からの推移をみると、減少傾向にあります。



資料：「人口動態調査」（各年累計）

### ④合計特殊出生率の推移

令和4年の富士宮市の合計特殊出生率は、1.13となっています。静岡県や全国と比較すると、やや低い水準であることがわかります。平成29年からの推移をみると、静岡県や全国は緩やかに低下しているものの、富士宮市は令和元年から令和2年に大きく低下し、その後も横ばい～減少傾向となっています。

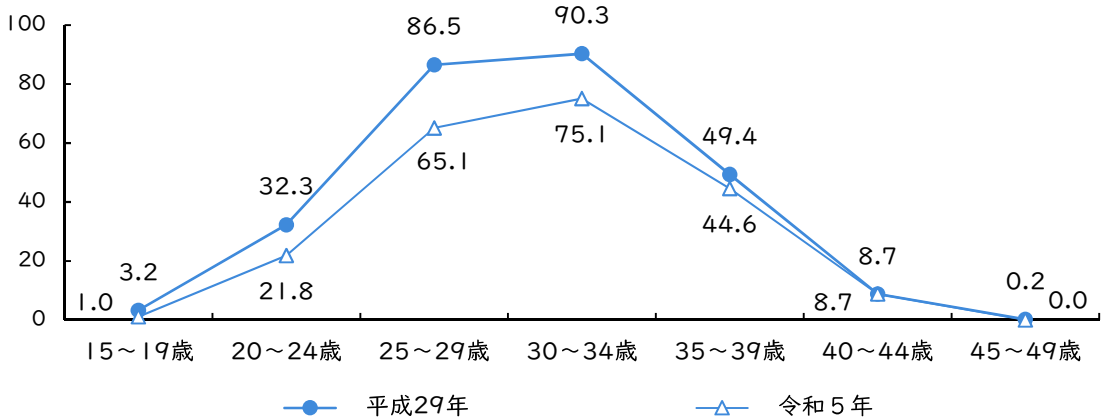


資料：富士宮市「静岡県人口動態統計を元に健康増進課にて算出」、静岡県・全国「人口動態調査」（各年累計）

※合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯に出産することの数を推計したものの。

### ⑤母親の年齢区分別出生率（人口千人対）の推移

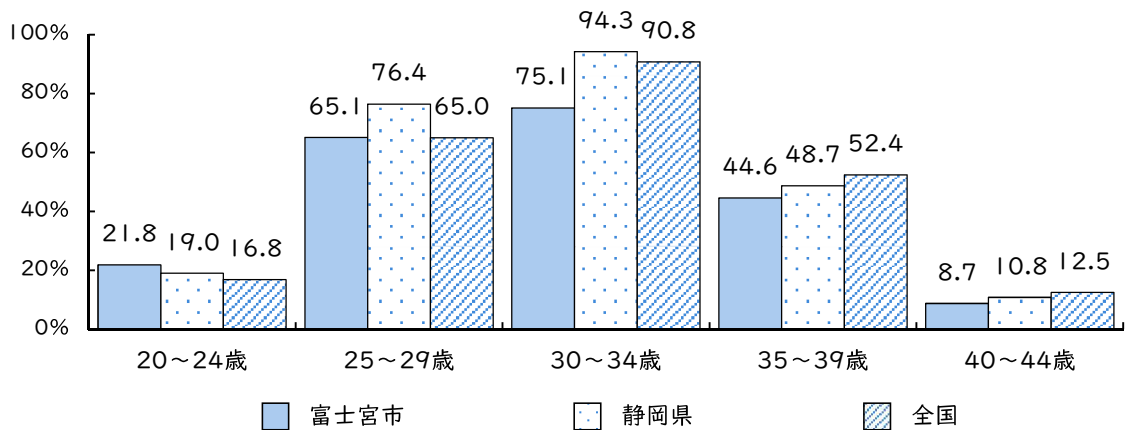
令和5年の出生率（人口千人対）を母親の年齢区分別にみると、20代後半から30代前半にかけて60～70台と高くなっています。平成29年と比較すると、すべての母親の年齢区分において低くなっています。特に20代前半から30代後半にかけて差が大きくなっています。



資料：「人口動態調査」（各年累計）

### ⑥母親の年齢区分別出生率（人口千人対）の比較（令和5年）

令和5年の母親の年齢区分別出生率（人口千人対）を静岡県や全国と比較すると、20代前半は全国より高い水準、30代前半から30代後半にかけて全国より低い水準となっていることがわかります。静岡県は20代後半から30代前半にかけて出生率が高くなっているものの、20代前半や30代後半、40代前半では富士宮市と類似した傾向となっています。

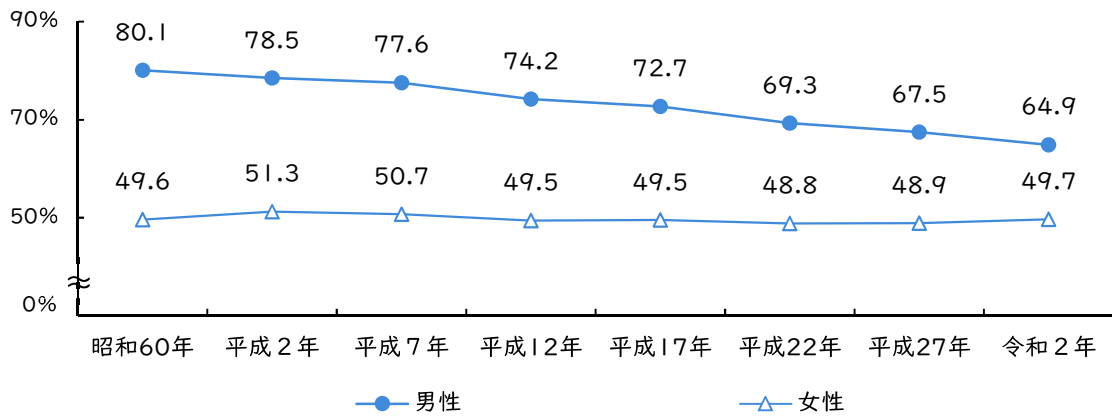


資料：「人口動態調査」（令和5年累計）

### (3) 就業の状況

#### ①性別就業率の推移

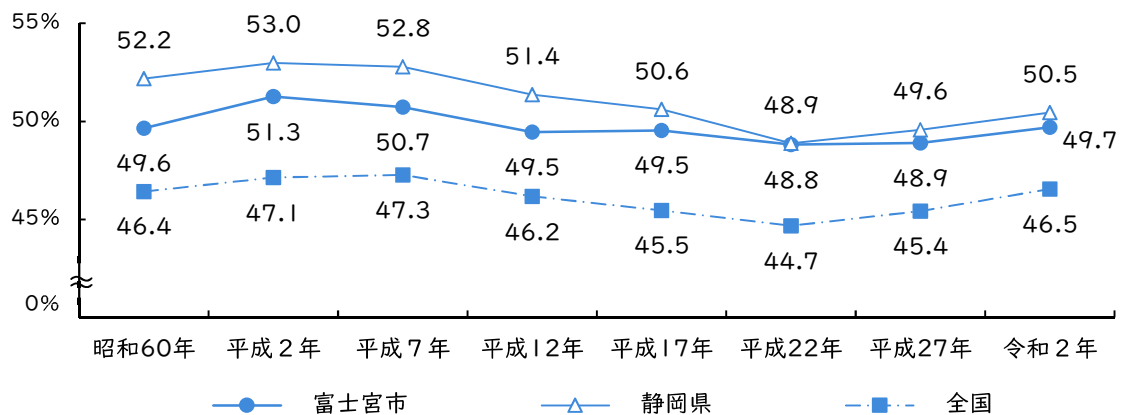
令和2年の就業率を性別にみると、「男性」が64.9%、「女性」が49.7%となっています。昭和60年からの推移をみると、「男性」は低下傾向、「女性」は横ばい傾向にあります。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点） ※就業率とは、就業者を15歳以上人口で除したものの。

#### ②女性の就業率の比較

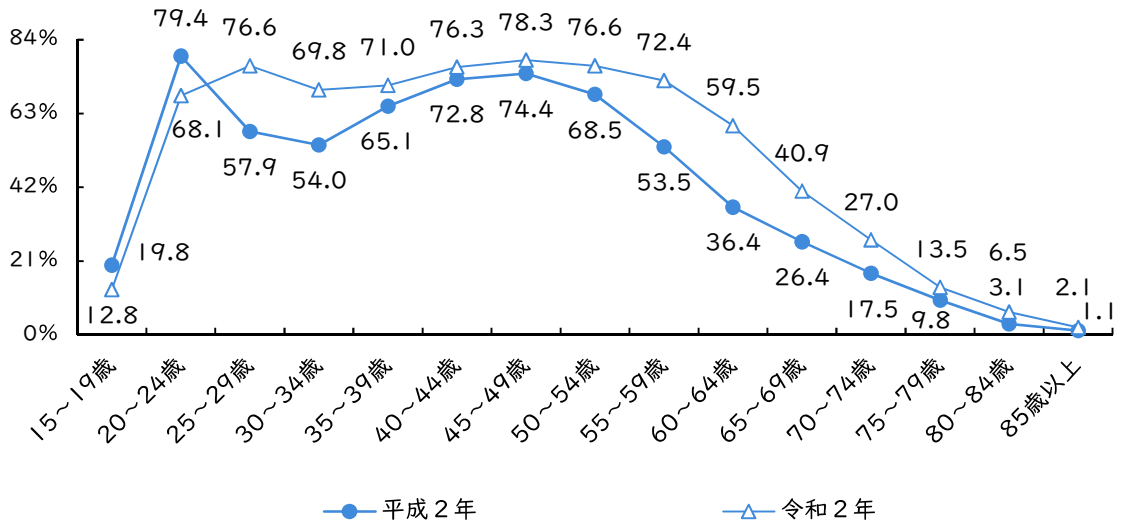
令和2年の富士宮市の女性の就業率は、49.7%となっています。静岡県や全国と比較すると、全国より高い水準、静岡県とほぼ同じ水準であることがわかります。昭和60年からの推移をみると、平成2年にピークを迎えた後は低下傾向にあったものの、平成27年に増加傾向に転じています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ③年齢区分別女性の就業率の推移

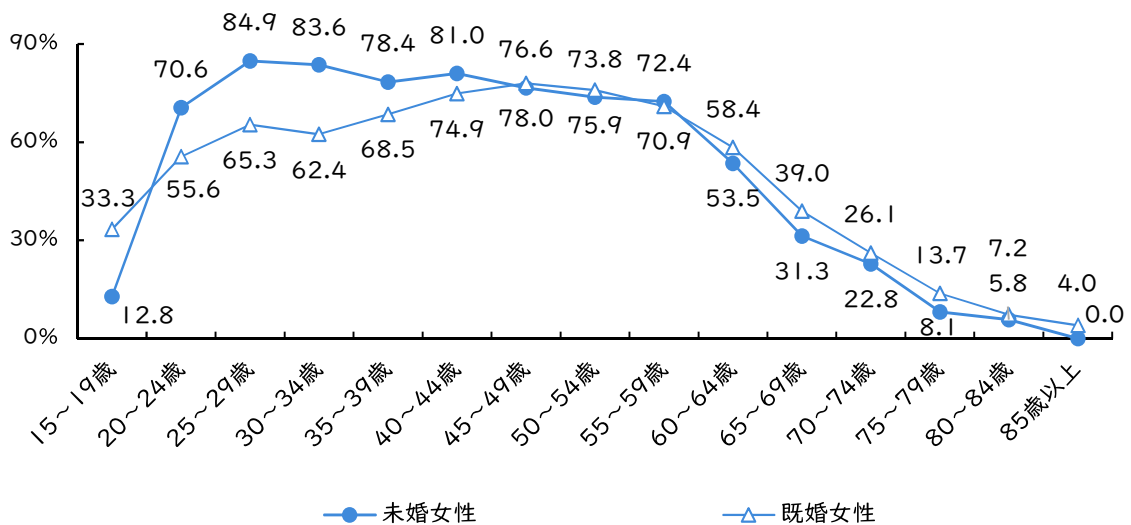
令和2年の女性の就業率を年齢区分別にみると、20代前半から50代後半にかけて6～7割を超えて高くなっています。平成2年と比較すると、20代後半以降で高くなっています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

### ④年齢区分別・婚姻状況別女性の就業率の比較（令和2年）

令和2年の女性の就業率を年齢区分別・婚姻状況別にみると、20代前半から40代前半にかけて「未婚女性」が「既婚女性」より高く、60代前半から70代後半にかけて「既婚女性」が「未婚女性」より高くなっています。特に差が大きいのは、20代前半から30代前半で15ポイント以上の差がみられます。

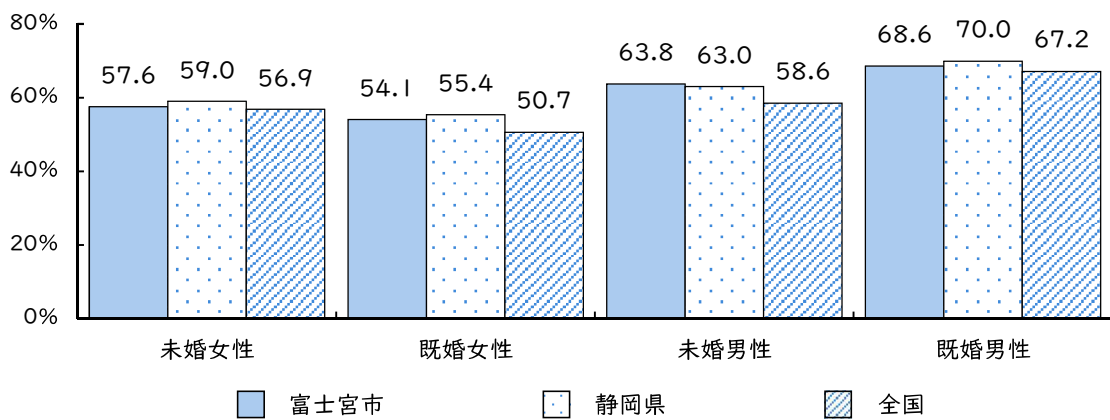


資料：「国勢調査」（令和2年10月1日時点）



### ⑤性別・婚姻状況別就業率の比較（令和2年）

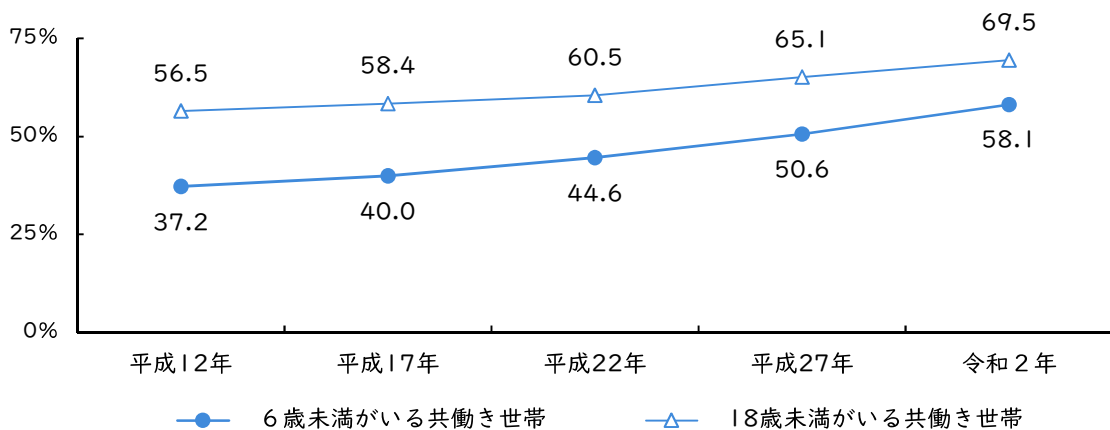
令和2年の富士宮市の就業率を性別・婚姻状況別にみると、「未婚女性」が57.6%、「既婚女性」が54.1%、「未婚男性」が63.8%、「既婚男性」が68.6%となっています。女性は既婚より未婚で高く、男性は未婚より既婚で高くなっています。静岡県や全国と比較すると、「未婚女性」、「既婚男性」に大きな差はみられないものの、「既婚女性」、「未婚男性」は全国より高い水準、静岡県とはほぼ同じ水準であることがわかります。



資料：「国勢調査」（令和2年10月1日時点）

### ⑥6歳未満・18歳未満がいる共働き世帯割合の推移

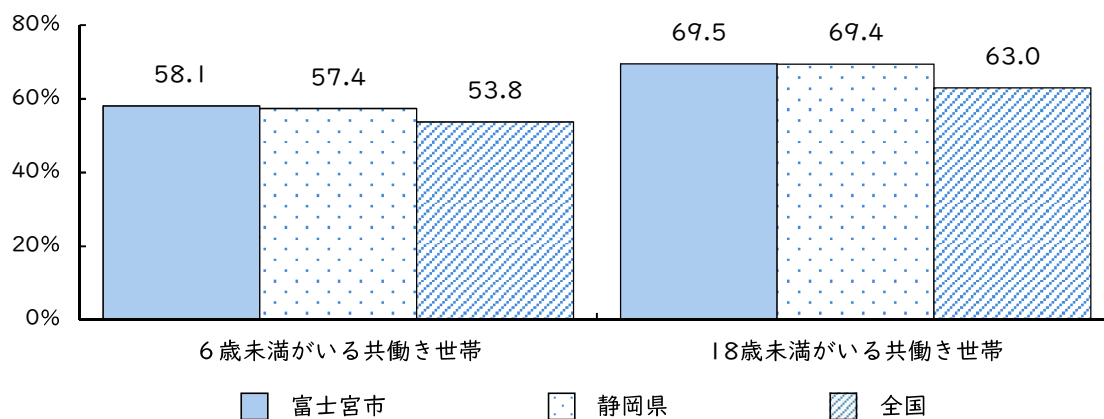
令和2年の「6歳未満がいる共働き世帯」は58.1%、「18歳未満がいる共働き世帯」は69.5%となっています。平成12年からの推移をみると、いずれも上昇傾向にあるものの、特に「6歳未満がいる共働き世帯」の上昇幅が大きく、平成12年からの20年間で20.9ポイント上昇しています。



資料：「国勢調査」（各年10月1日時点）

⑦ 6歳未満・18歳未満がいる共働き世帯割合の比較（令和2年）

令和2年の6歳未満・18歳未満がいる共働き世帯割合を静岡県や全国と比較すると、6歳未満がいる共働き世帯割合・18歳未満がいる共働き世帯割合ともに、全国より高い水準、静岡県とほぼ同じ水準であることがわかります。

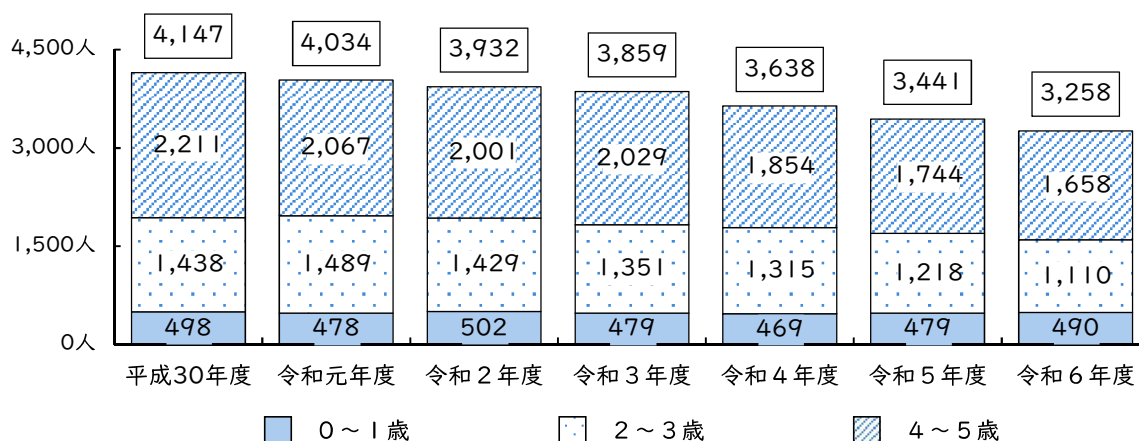


資料：「国勢調査」（令和2年10月1日時点）

## (4) 保育・教育施設の状況

### ①年齢区分別保育・教育施設利用児童数の推移

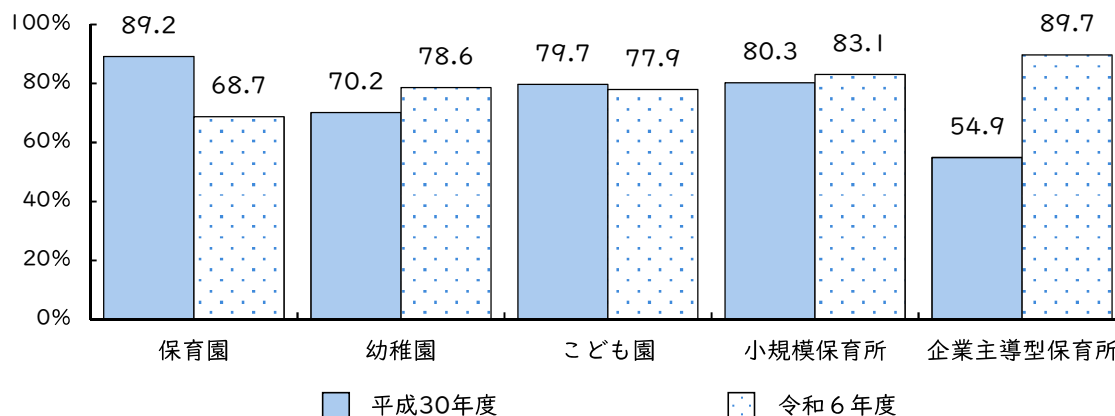
令和6年度の保育・教育施設利用児童数は3,258人で、内訳は「0～1歳」が490人、「2～3歳」が1,110人、「4～5歳」が1,658人となっています。平成30年度からの推移をみると、保育・教育施設利用児童数は減少傾向にあります。年齢区分別にみると、「2～3歳」、「4～5歳」は減少傾向、「0～1歳」は多少の増減はあるものの横ばい傾向にあります。



資料：「初日在籍」（各年度4月1日時点）

### ②保育・教育施設別定員充足率の推移

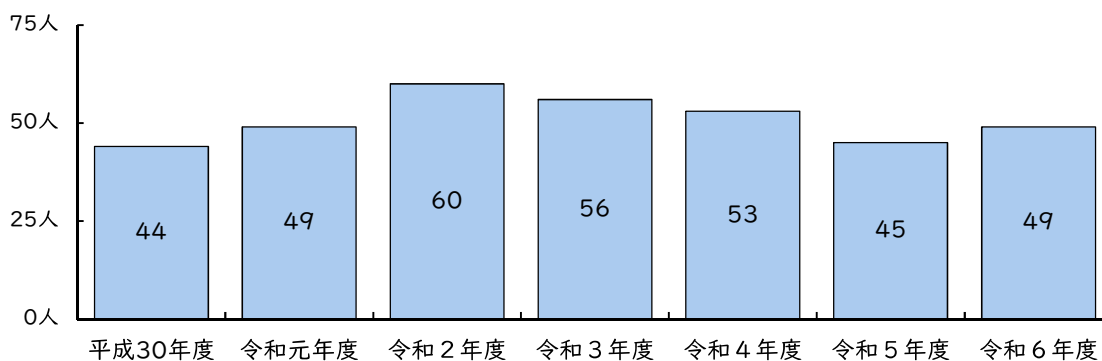
令和6年度の定員充足率を保育・教育施設別にみると、「企業主導型保育所」が89.7%と最も高く、次いで「小規模保育所」が83.1%、「幼稚園」が78.6%などとなっています。平成30年度と比較すると、「保育園」が低下しているものの、その他の保育・教育施設では横ばい～上昇しています。特に「企業主導型保育所」は34.8ポイント上昇しています。



資料：「初日在籍」（各年度4月1日時点）

### ③外国人の保育・教育施設利用児童数の推移

令和6年度の外国人の保育・教育施設利用児童数は、49人となっています。平成30年度からの推移をみると、令和2年度まで増加傾向にあったものの、その後減少傾向に転じています。しかし、令和6年度には再び増加に転じており、前年度を4人上回っています。



資料：「初日在籍」（各年度4月1日時点）

### ④特別保育

富士宮市内の保育・教育施設では、下表の通り特別保育を行っています。

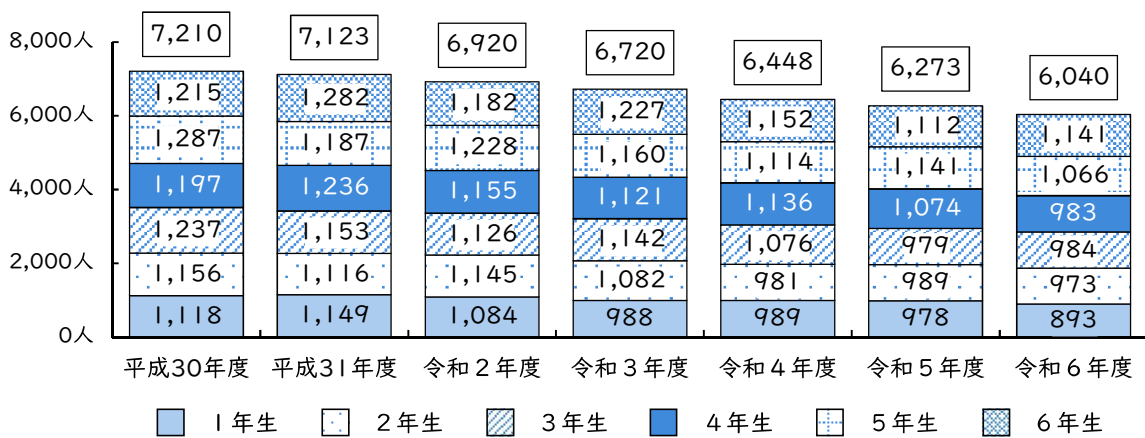
	延べ利用人数	実施箇所数
乳児保育	10,615人	32箇所
延長保育（18時以降）	2,363人	26箇所
休日保育	6人	1箇所
一時保育	保 651人 幼 32,438人	保 32箇所 幼 19箇所
障害児保育	12人	9箇所
外国人児童保育	58人	24箇所
病児・病後児保育	166人	3箇所
園庭開放	0人	13箇所

資料：「保育支援課調べ」（令和5年度）

(5) 小学校・中学校の状況

①小学校に通う児童数の推移

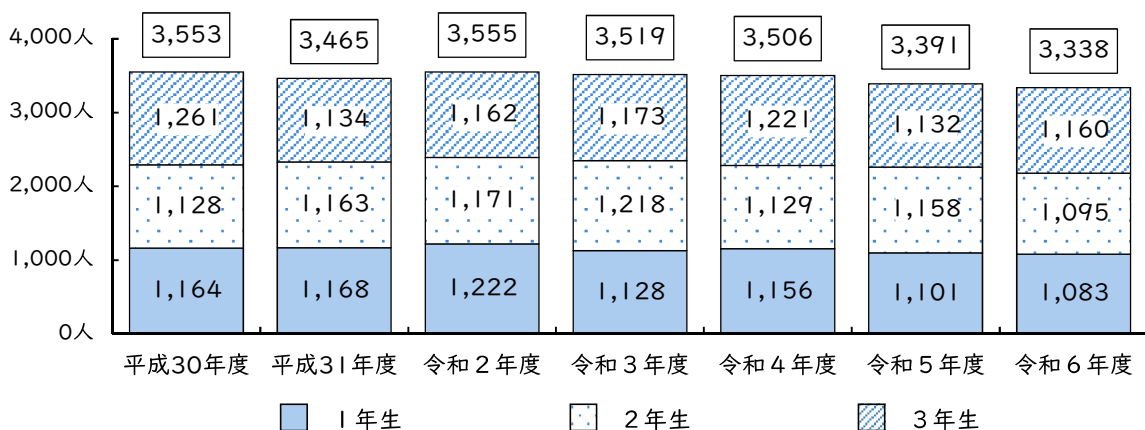
令和6年度の小学校に通う児童数は6,040人で、内訳は「6年生」が1,141人、「5年生」が1,066人、「3年生」が984人となっています。平成30年度からの推移をみると、小学校に通う児童数は減少傾向にあります。学年別にみると、すべての学年において減少傾向にあるものの、「6年生」が平成30年度からの6年間で74人の減少と、他の学年よりも減少幅が小さくなっています。



資料：「学校数及び児童・生徒数」（各年度5月1日時点）

②中学校に通う生徒数の推移

令和6年度の中学校に通う生徒数は3,338人で、内訳は「1年生」が1,083人、「2年生」が1,095人、「3年生」が1,160人となっています。平成30年度からの推移をみると、中学校に通う生徒数は減少傾向にあります。学年別にみると、すべての学年において減少傾向にあるものの、特に「3年生」の減少幅が大きく、平成30年度からの6年間で101人減少しています。

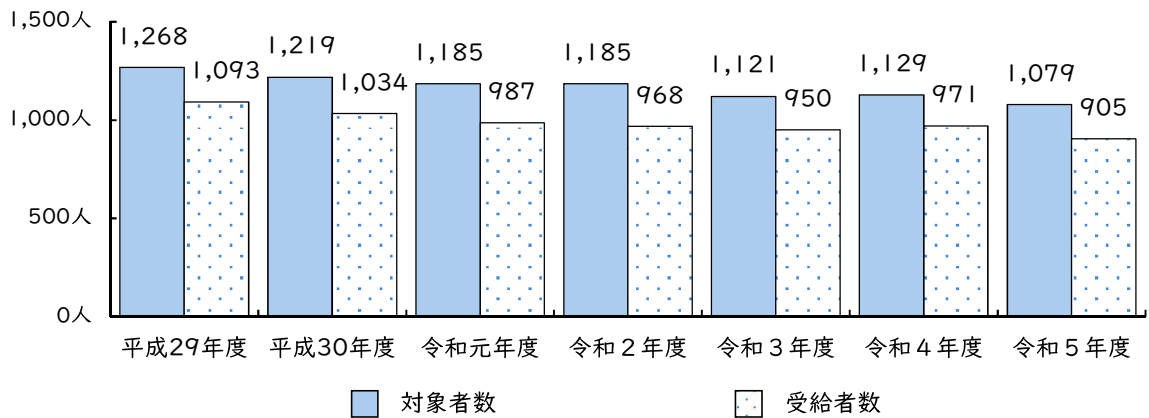


資料：「学校数及び児童・生徒数」（各年度5月1日時点）

(6) 支援・取り巻く課題の状況

①児童扶養手当対象者数・受給者数の推移

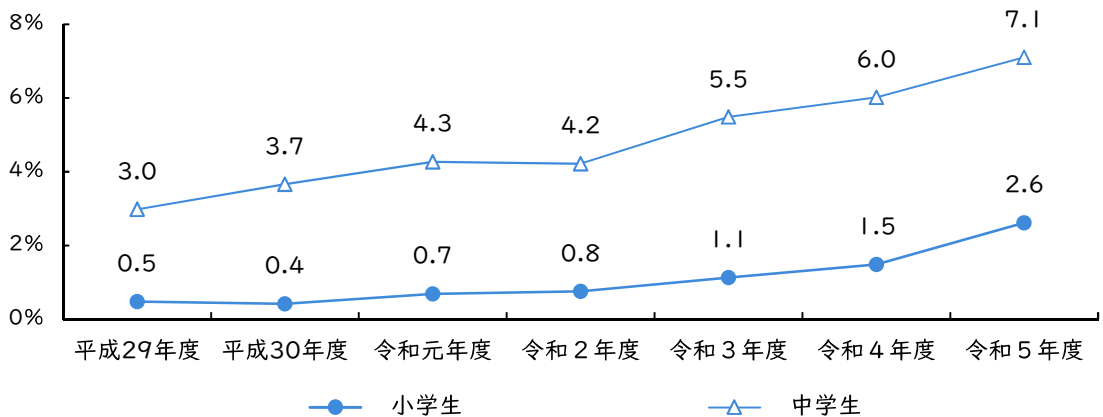
令和5年度の児童扶養手当対象者数は1,079人、受給者数は905人となっています。平成29年度からの推移をみると、児童扶養手当対象者数・受給者数ともに減少傾向にあります。



資料：「こども未来課調べ」（各年度3月31日時点）

②小学生・中学生別不登校割合の推移

令和5年度の不登校割合は、「小学生」が2.6%、「中学生」が7.1%となっています。平成29年度からの推移をみると、いずれも上昇傾向にあります。「小学生」の割合は低いものの、平成29年度からの6年間で5倍以上に増えています。

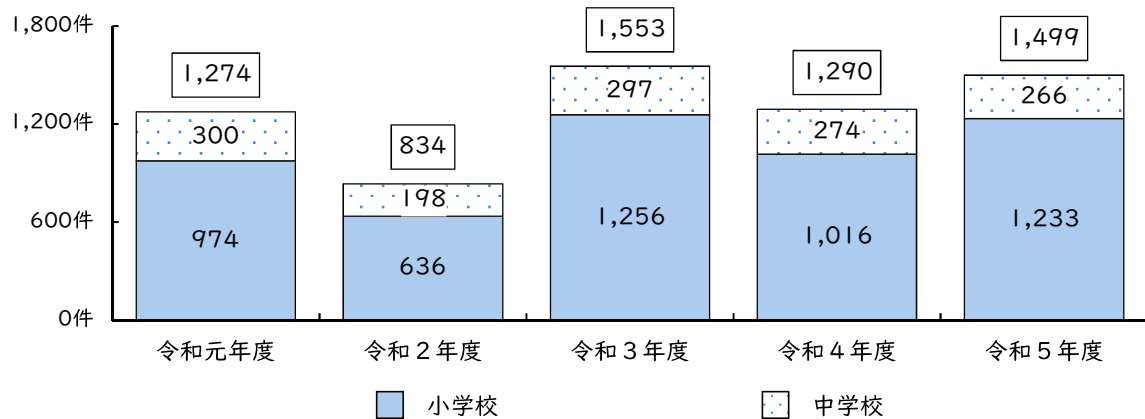


資料：「児童生徒の問題行動等の調査」（各年度3月31日時点）※私立中学校を除く

※不登校とは、年間30日以上欠席のこと。

### ③いじめ認知件数の推移

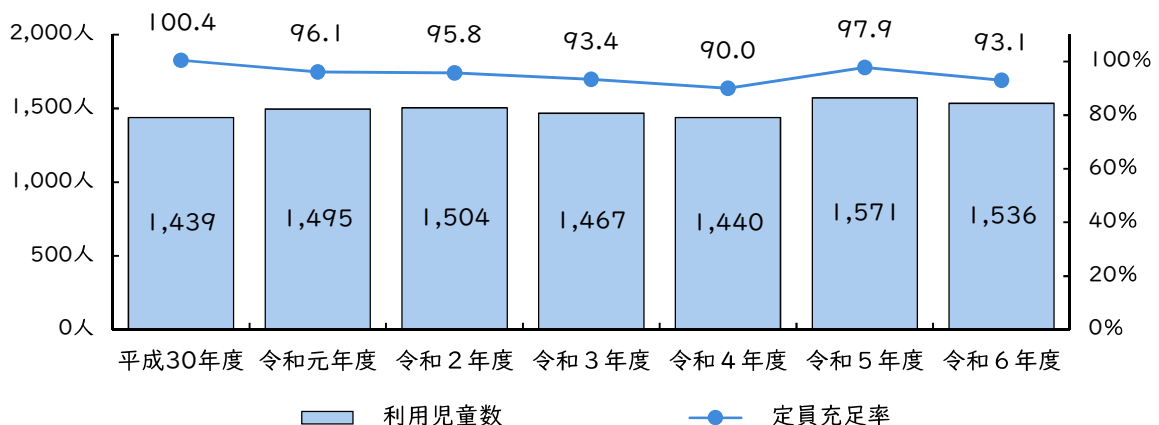
令和5年度のいじめ認知件数は1,499件で、内訳は「小学校」が1,233件、「中学校」が266件となっています。令和元年度からの推移をみると、いじめ認知件数は令和2年度に減少したものの、令和3年度に増加してからは1,200件以上で推移しています。学校の種類別にみると、「小学校」が全体の7～8割を占める傾向が続いており、「小学校」の増減がいじめ認知件数の増減につながっています。「中学校」は多少の増減はあるものの、200件台後半で推移することが多くなっています。



資料：「児童生徒の問題行動等の調査」（各年度3月31日時点）

### ④放課後児童クラブ利用児童数・定員充足率の推移

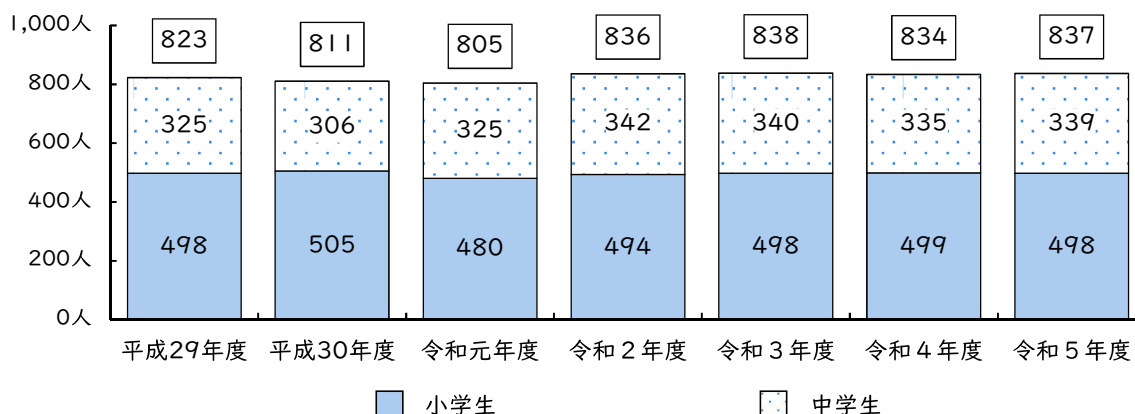
令和6年度の放課後児童クラブ利用児童数は1,536人、定員充足率は93.1%となっています。平成30年度からの推移をみると、放課後児童クラブ利用児童数は増減を繰り返しながら増加しており、平成30年度からの6年間で97人増加しています。定員充足率は、平成30年度に100%を超えたものの、その後は放課後児童クラブが増加したこともあり、9割台で推移しています。



資料：「こども未来課調べ」（各年度5月1日時点）

### ⑤就学援助認定者数の推移

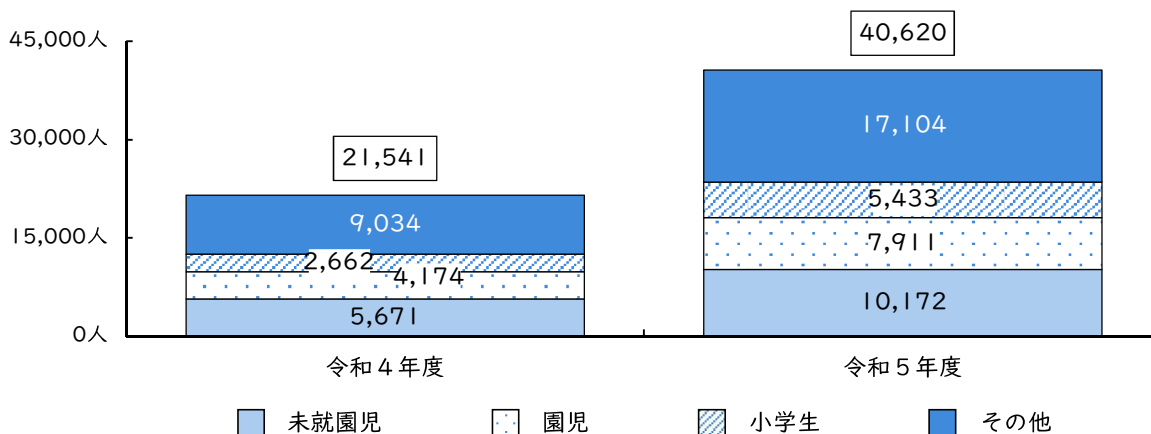
令和5年度の就学援助認定者数は837人で、内訳は「小学生」が498人、「中学生」が339人となっています。平成29年度からの推移をみると、就学援助認定者数は多少の増減はあるものの、820～830人台で推移することが多くなっています。小学生・中学生別にみると、「小学生」、「中学生」とも多少の増減はあるものの、大きな変化はみられません。



資料：「学校教育課調べ」（各年度3月31日時点）

### ⑥児童館利用者数の推移

令和5年度の児童館利用者数は40,620人で、内訳は「未就園児」が10,172人、「園児」が7,911人、「小学生」が5,433人、「その他」が17,104人となっています。令和4年度と比較すると、児童館利用者数は増加しています。利用者の属性別にみると、すべての属性において増加傾向にあります。



資料：「こども未来課調べ」（各年度3月31日時点）



## 2 アンケート結果等からみた富士宮市の現状

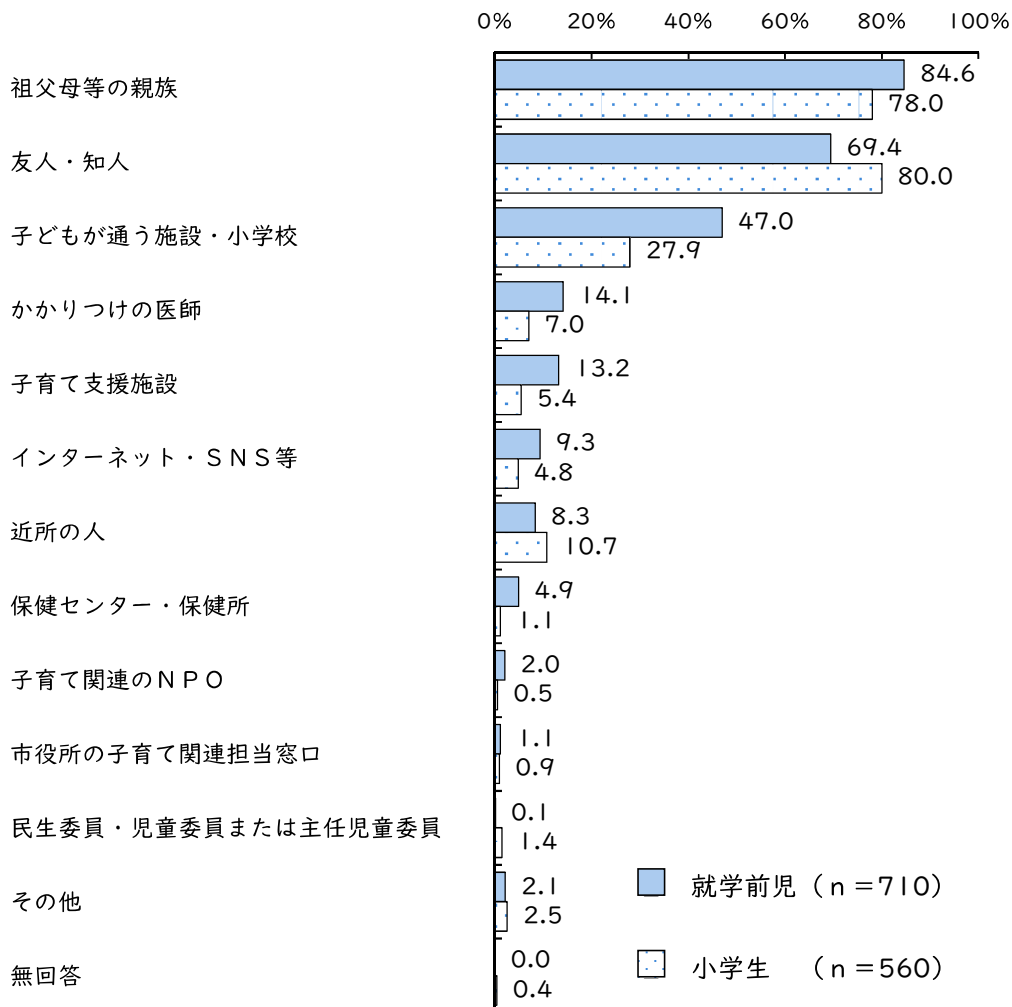
### (1) 子育て支援に関するアンケート調査

調査対象	①就学前児童（1,555名）、②小学生（908名）
調査日	令和6年3月1日～3月20日
調査方法	① 郵送配布・郵送又はWeb回収、②小学校配布・小学校又はWeb回収
有効回収	①752票（48.4%）、②607票（66.9%）

#### ①お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先（複数回答可）

<就学前児> 「祖父母等の親族」が84.6%と最も多く、次いで「友人・知人」が69.4%、「子どもが通う施設（保育園など）」が47.0%などとなっています。

<小学生> 「友人・知人」が80.0%と最も多く、次いで「祖父母等の親族」が78.0%、「小学校」が27.9%などとなっています。

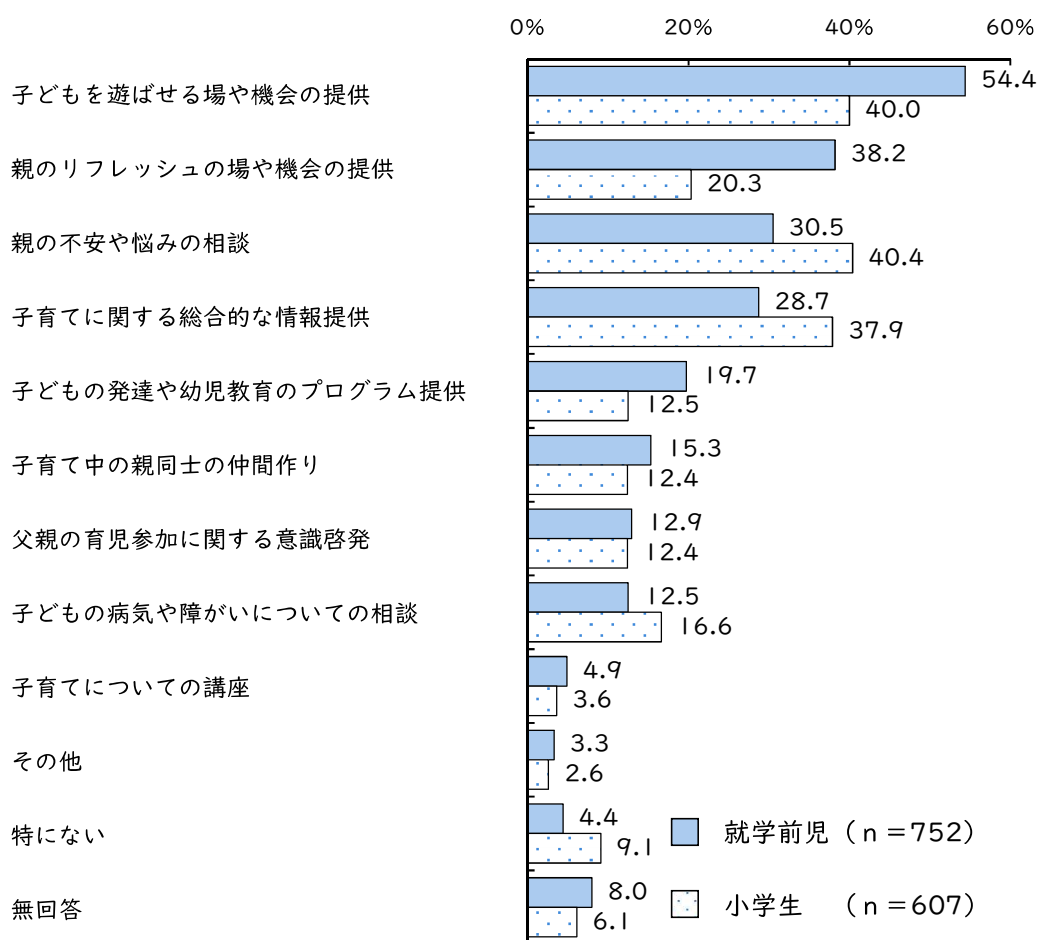


※ 「子どもが通う施設」は就学前児のみの選択肢、「小学校」は小学生のみの選択肢です。

②子育てをする上で、あればよいと思う周囲からのサポート（複数回答可）

<就学前児> 「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が54.4%と最も多く、次いで「親のリフレッシュの場や機会の提供」が38.2%、「親の不安や悩みの相談」が30.5%などとなっています。

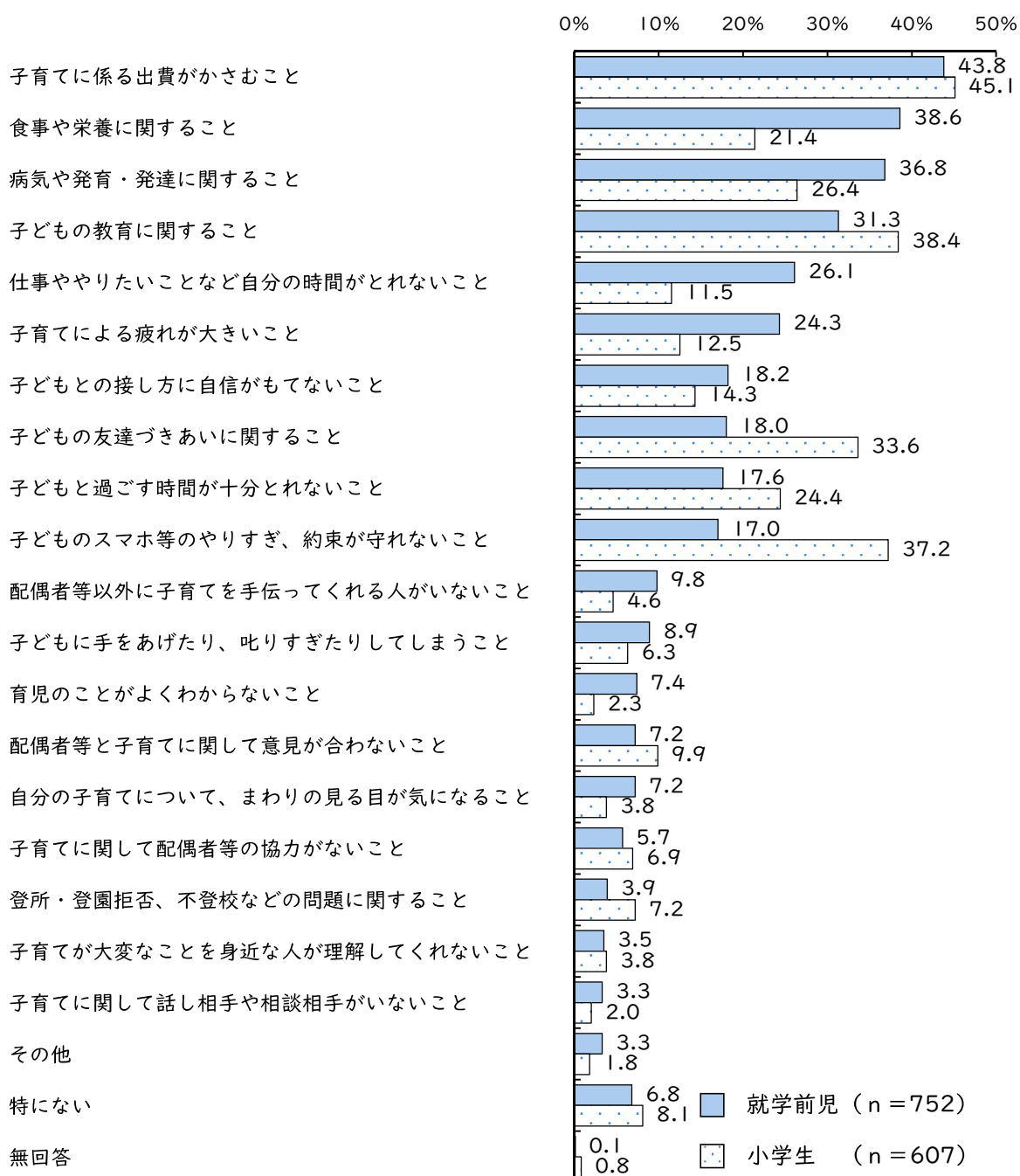
<小学生> 「親の不安や悩みの相談」が40.4%と最も多く、次いで「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が40.0%、「子育てに関する総合的な情報提供」が37.9%などとなっています。



③子育てに関して、日頃悩んでいること、また気になること（複数回答可）

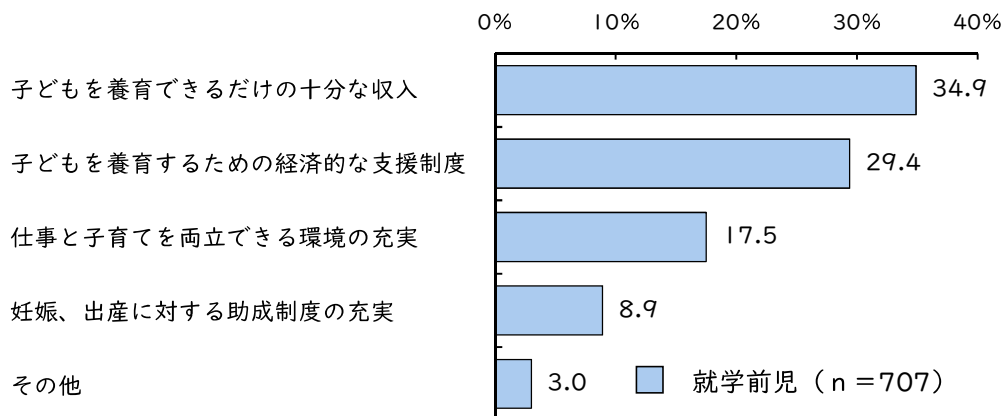
<就学前児> 「子育てに係る出費がかさむこと」が43.8%と最も多く、次いで「食事や栄養に関すること」が38.6%、「病気や発育・発達に関すること」が36.8%などとなっています。

<小学生> 「子育てに係る出費がかさむこと」が45.1%と最も多く、次いで「子どもの教育に関すること」が38.4%、「子どものスマホ・ゲーム等のやりすぎ、約束が守れないこと」が37.2%などとなっています。



#### ④理想とする子どもの人数を出産するために、もっとも必要だと思うこと

<就学前児> 「子どもを養育できるだけの十分な収入」が34.9%と最も多く、次いで「子どもを養育するための経済的な支援制度」が29.4%、「仕事と子育てを両立できる環境の充実」が17.5%などとなっています。

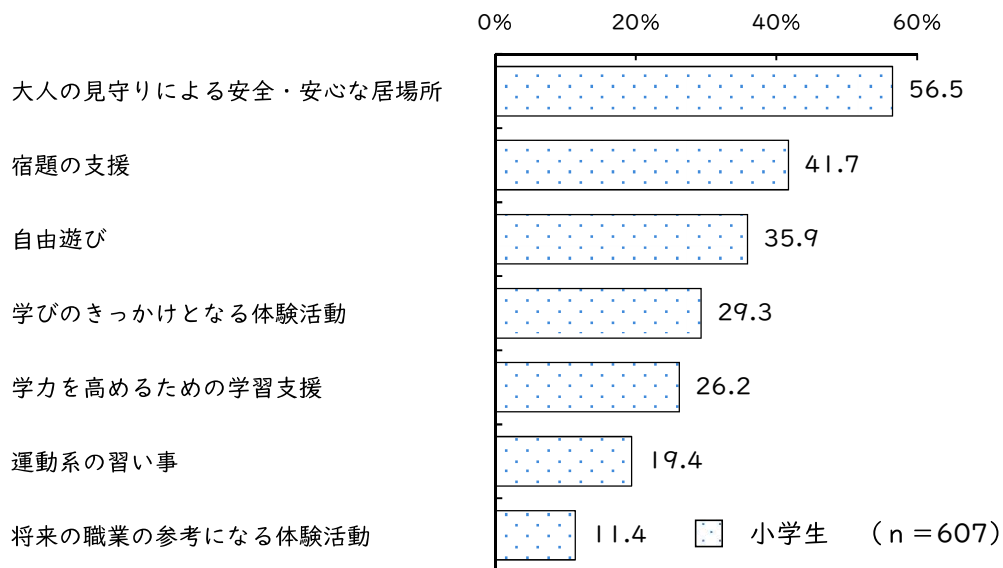


※上位4項目のみ掲載

※理想とする子どもの人数に関する問を回答した方のみ回答

#### ⑤宛名のお子さんが放課後を過ごすために必要だと思うもの（複数回答可）

<小学生> 「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が56.5%と最も多く、次いで「宿題の支援」が41.7%、「自由遊び」が35.9%などとなっています。

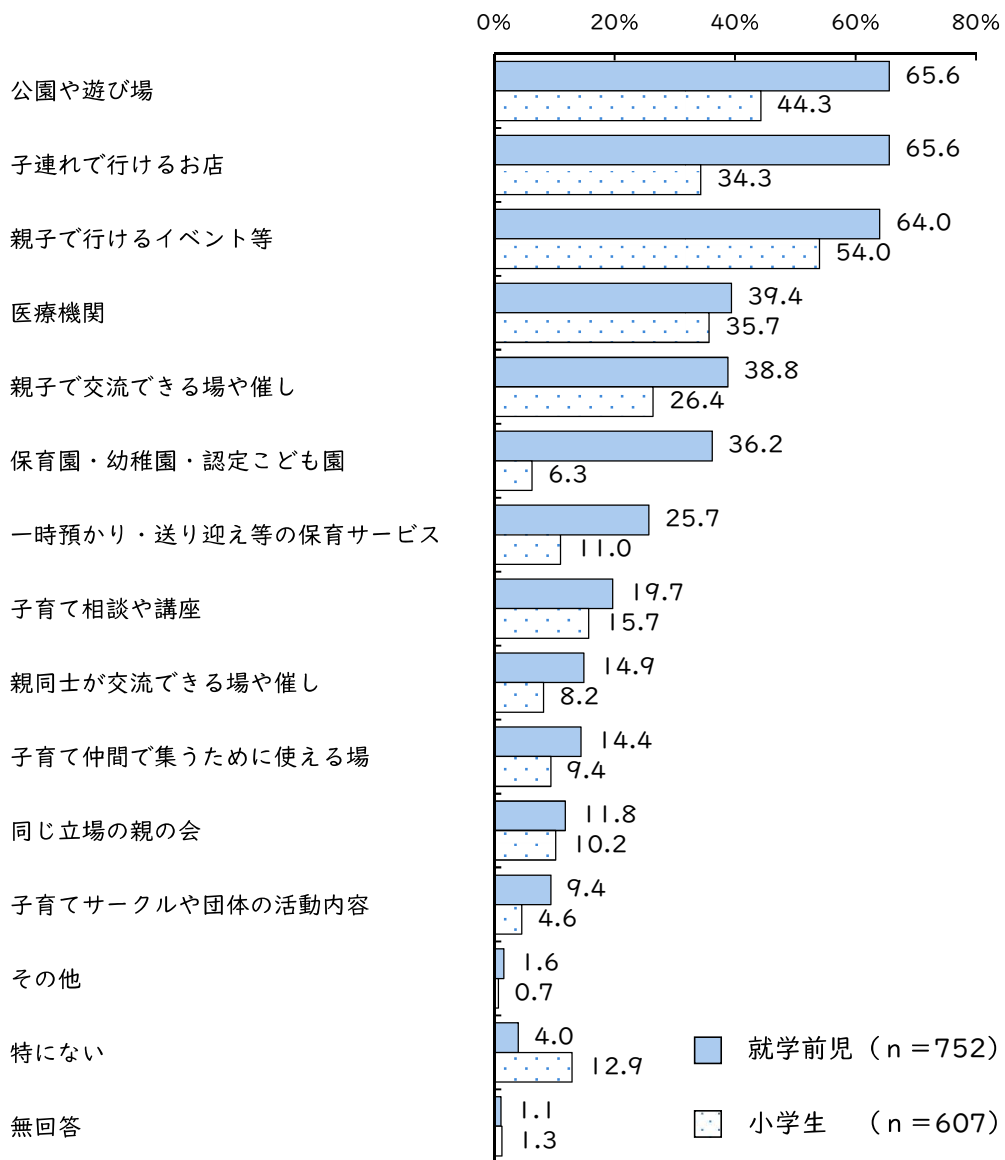


※上位7項目のみ掲載

⑥子育てに関して知りたい情報（複数回答可）

<就学前児> 「公園や遊び場」、「子連れで行けるお店」がそれぞれ65.6%と最も多く、次いで「親子で行けるイベント等」が64.0%、「医療機関」が39.4%などとなっています。

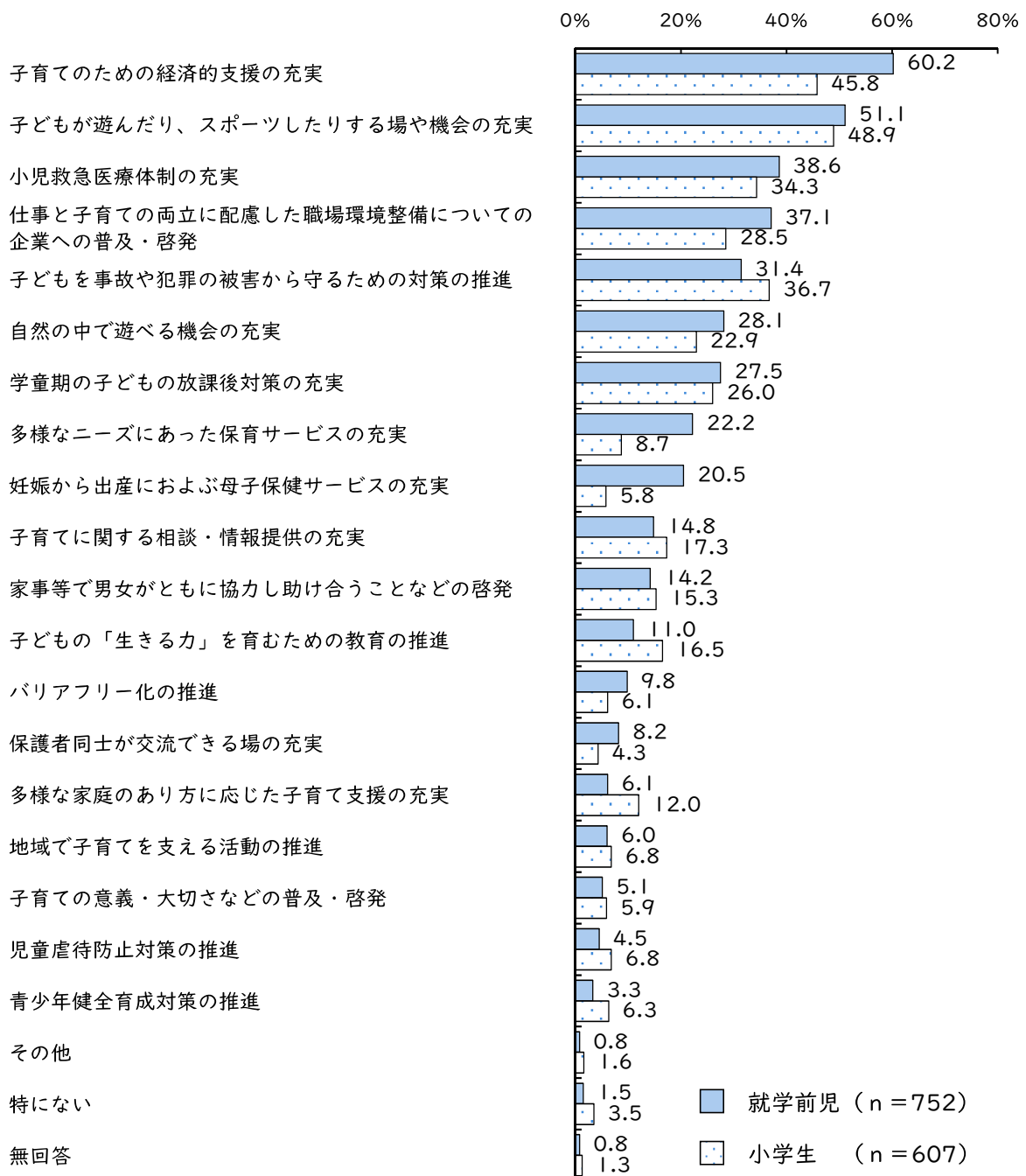
<小学生> 「親子で行けるイベント等」が54.0%と最も多く、次いで「公園や遊び場」が44.3%、「医療機関」が35.7%などとなっています。



⑦子育て支援でもっと力をいれてほしいもの（複数回答可）

<就学前児> 「子育てのための経済的支援の充実」が60.2%と最も多く、次いで「子どもが遊んだり、スポーツしたりする場や機会の充実」が51.1%、「小児救急医療体制の充実」が38.6%などとなっています。

<小学生> 「子どもが遊んだり、スポーツしたりする場や機会の充実」が48.9%と最も多く、次いで「子育てのための経済的支援の充実」が45.8%、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が36.7%などとなっています。

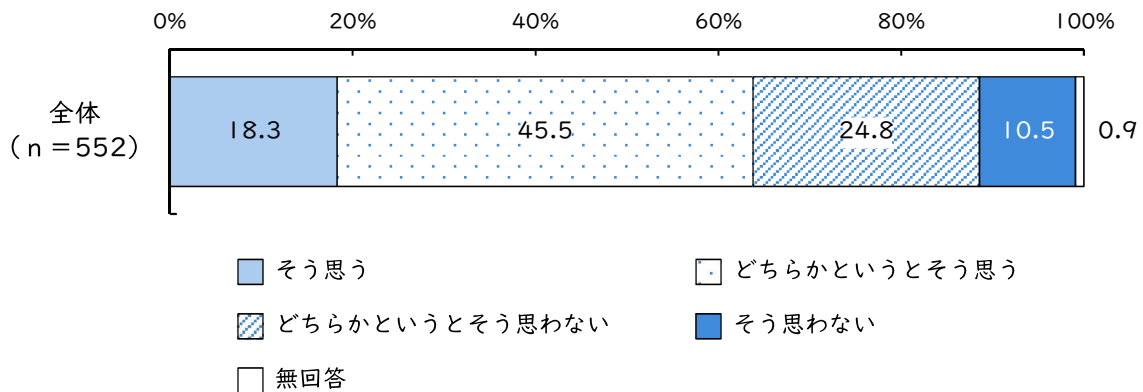


(2) 若者の生活や少子化等に関するアンケート調査

調査対象	15歳～39歳の男女(2,000s)
調査日	令和6年7月9日～8月13日
調査方法	郵送配布・郵送又はWeb回収
有効回収	552票(27.6%)

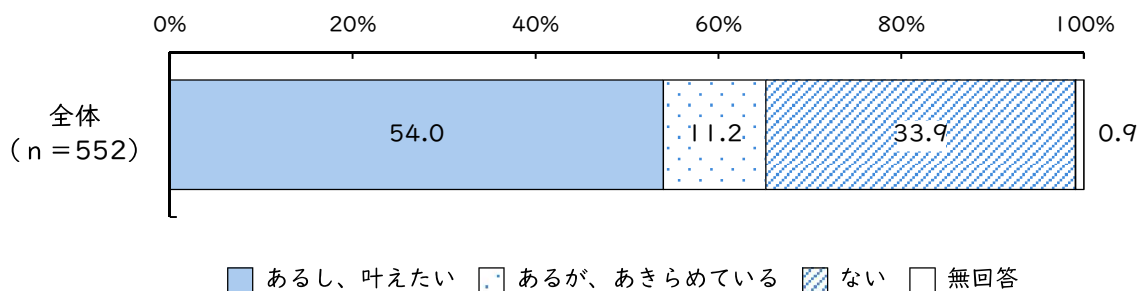
①「今の自分が好きだ」と思うか

「どちらかというと思う」が45.5%と最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が24.8%、「そう思う」が18.3%などとなっています。また、『思う』(そう思う+どちらかというと思う)は63.8%、『思わない』(そう思わない+どちらかというと思わない)は35.3%となっています。



②将来希望する夢や進路の有無

「あるし、叶えたい」が54.0%と最も多く、次いで「ない」が33.9%、「あるが、あきらめている」が11.2%となっています。また、『ある』(あるし、叶えたい+あるが、あきらめている)は、65.2%となっています。



### ③困った時に助けてくれると思うか

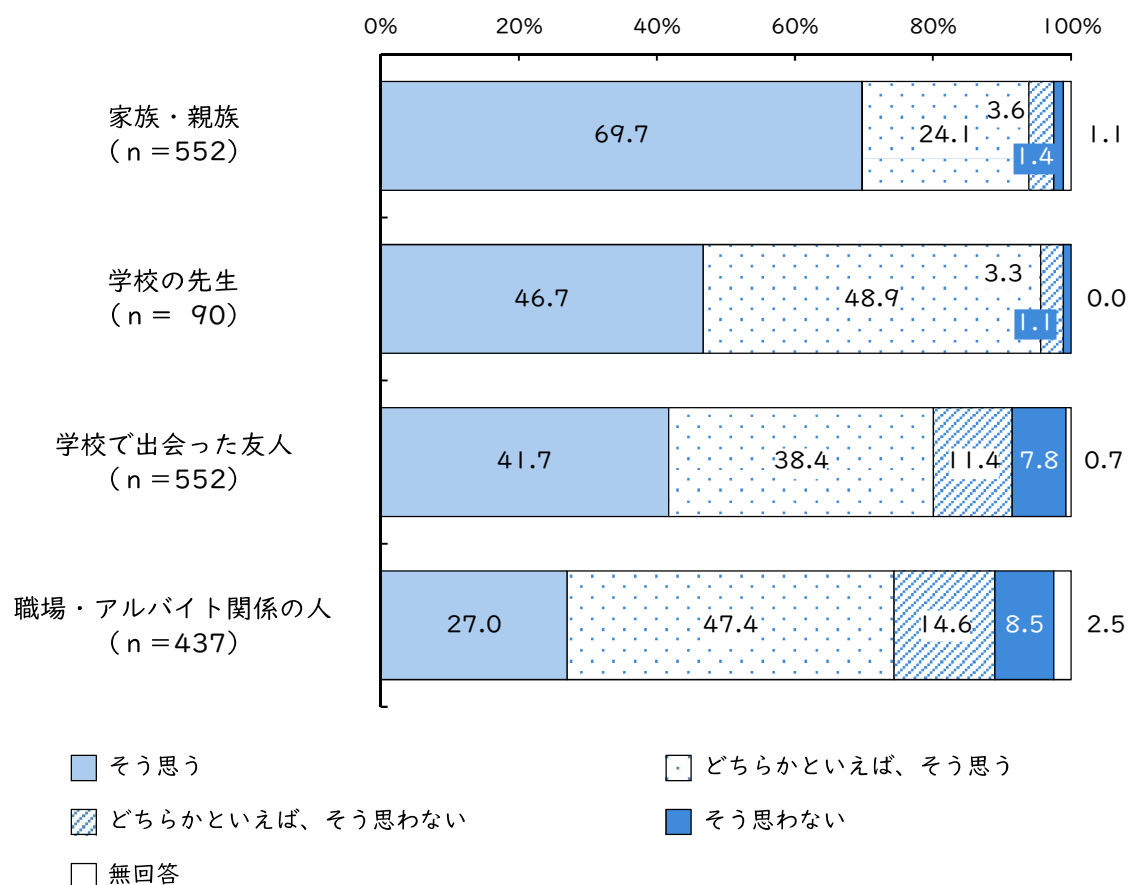
<家族・親族>『思う』は93.8%、『思わない』は5.0%となっています。

<学校の先生>『思う』は95.6%、『思わない』は4.4%となっています。

<学校で出会った友人>『思う』は80.1%、『思わない』は19.2%となっています。

<職場・アルバイト関係の人>『思う』は74.4%、『思わない』は23.1%となっています。

『思う』は、<家族・親族>、<学校の先生>において9割を超えて多くなっています。また、「そう思う」に限定すると、<家族・親族>が約7割と最も多くなっています。<学校で出会った友人>、<職場・アルバイト関係の人>においても、『思う』が7～8割と決して低い割合ではないものの、『思わない』が2割前後となっています。



※学校の先生については、高校生のみ回答

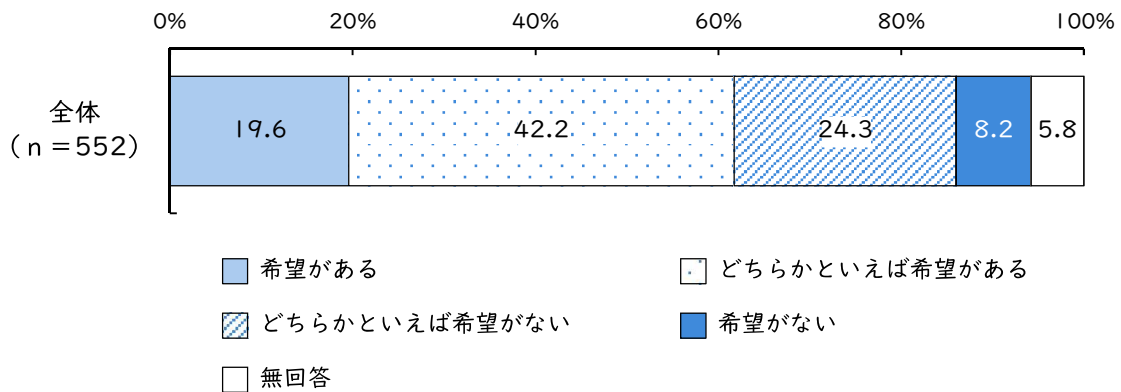
※職場・アルバイト関係の人については、就業経験がある人のみ回答

※『思う』(そう思う+どちらかというと思う)、『思わない』(そう思わない+どちらかというと思わない)



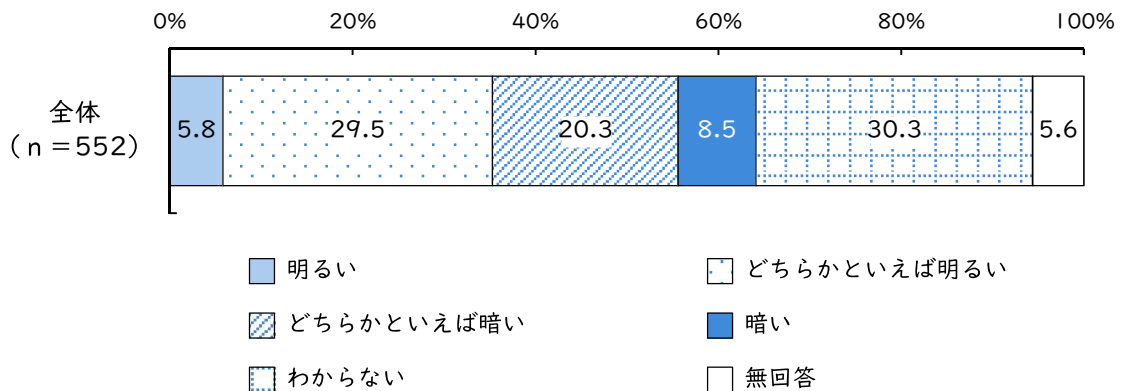
#### ④自分の将来について明るい希望を持っているか

「どちらかといえば希望がある」が42.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば希望がない」が24.3%、「希望がある」が19.6%などとなっています。また、『希望がある』（希望がある+どちらかといえば希望がある）は61.8%、『希望がない』（希望がない+どちらかといえば希望がない）は32.5%となっています。



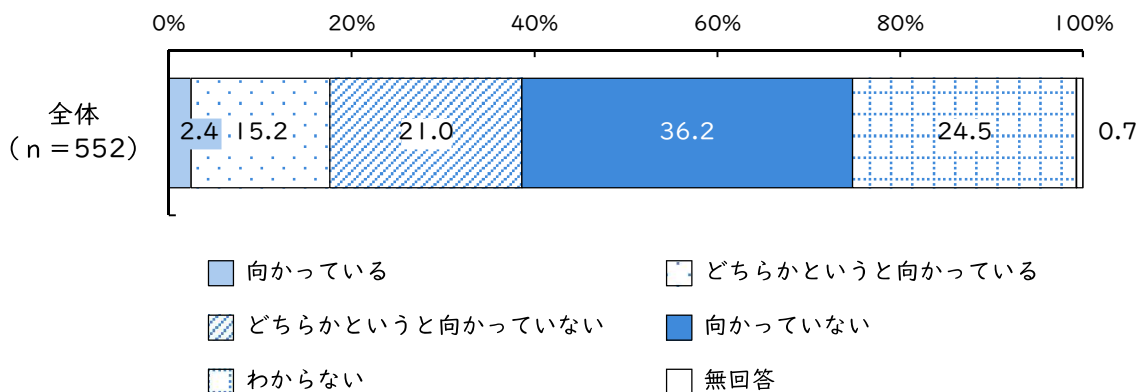
#### ⑤富士宮市の将来は明るいと思うか

「わからない」が30.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば明るい」が29.5%、「どちらかといえば暗い」が20.3%などとなっています。また、『明るい』（明るい+どちらかといえば明るい）は35.3%、『暗い』（暗い+どちらかといえば暗い）は28.8%となっています。



### ⑥今の社会は「こどもまんなか社会」の実現に向かっていると思うか

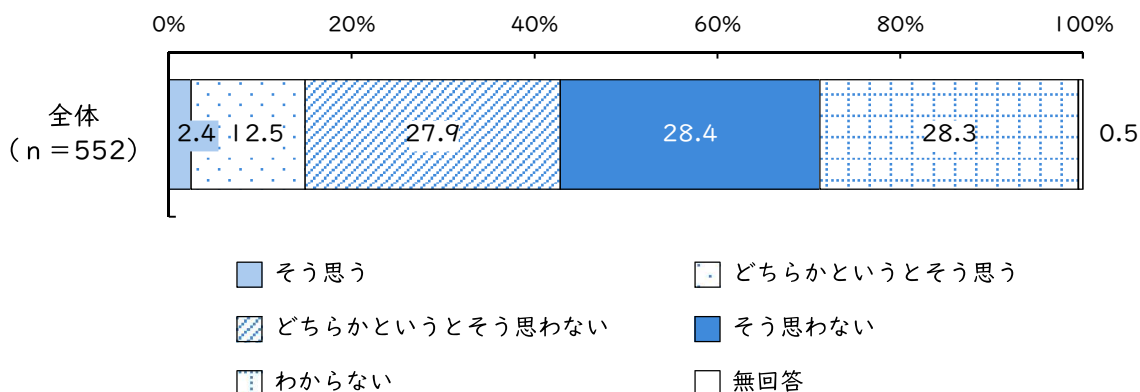
「向かっていない」が36.2%と最も多く、次いで「わからない」が24.5%、「どちらかという  
と向かっていない」が21.0%などとなっています。また、『向かっている』（向かっている+ど  
ちらかというと向かっている）は17.6%、『向かっていない』（向かっていない+どちらかとい  
うと向かっていない）は57.2%となっています。



※「こどもまんなか社会」とは…こどもや若者の視点に立ち、こどもにとって最善であることを一番に  
考え、こども本人の意見・考えなどを政策に反映していく社会。

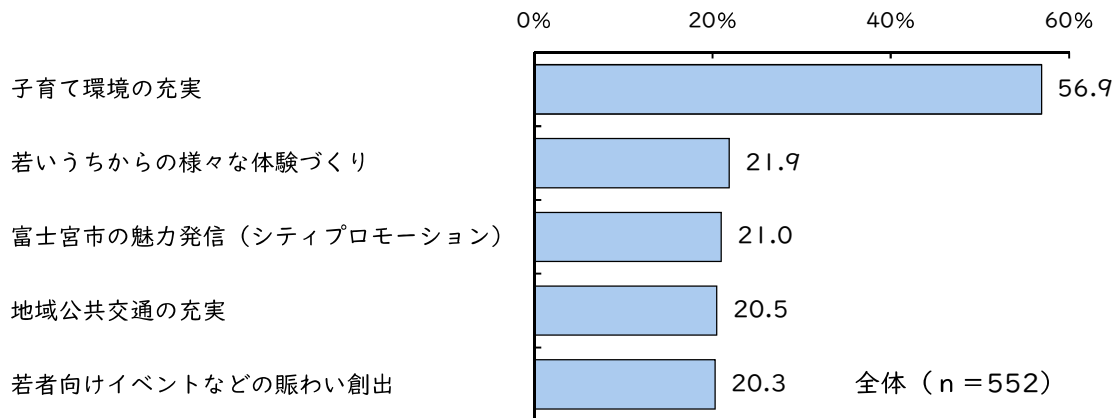
### ⑦こども政策に関して意見を聞いてもらえていると思うか

「そう思わない」が28.4%と最も多く、次いで「わからない」が28.3%、「どちらかという  
とそう思わない」が27.9%などとなっています。また、『思う』（そう思う+どちらかという  
とそう思う）は14.9%、『思わない』（そう思わない+どちらかという  
とそう思わない）は56.3%となっています。



⑧若者の地元定着を促進するために、富士宮市が力を入れるべきこと(複数回答可)

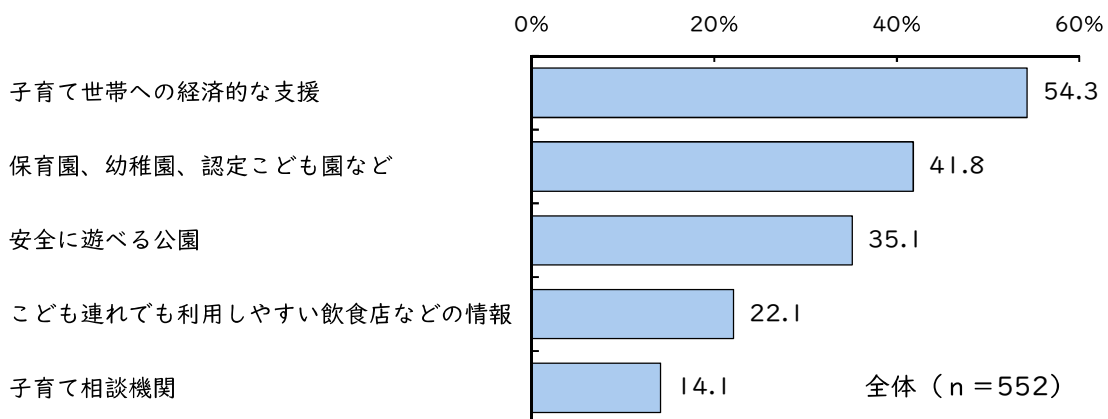
「子育て環境の充実」が56.9%と最も多く、次いで「若いうちからの様々な体験づくり」が21.9%、「富士宮市の魅力発信(シティプロモーション)」が21.0%などとなっています。



※上位5項目のみ掲載

⑨子育てを考える上で、富士宮市でより充実させた方がよいこと(複数回答可)

「子育て世帯への経済的な支援」が54.3%と最も多く、次いで「保育園、幼稚園、認定こども園など」が41.8%、「安全に遊べる公園」が35.1%などとなっています。

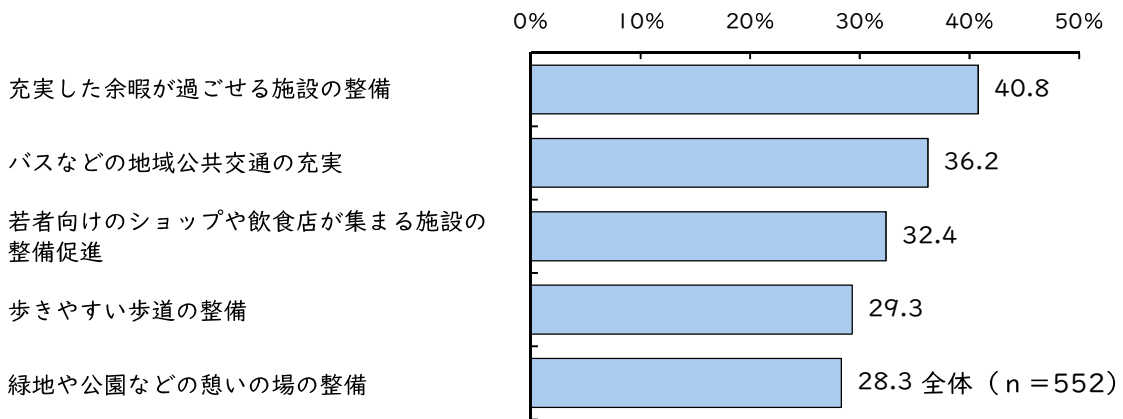


※上位5項目のみ掲載

⑩魅力あるまちづくりを進めるために、富士宮市が力を入れるべきこと  
(複数回答可)

<ハード面>

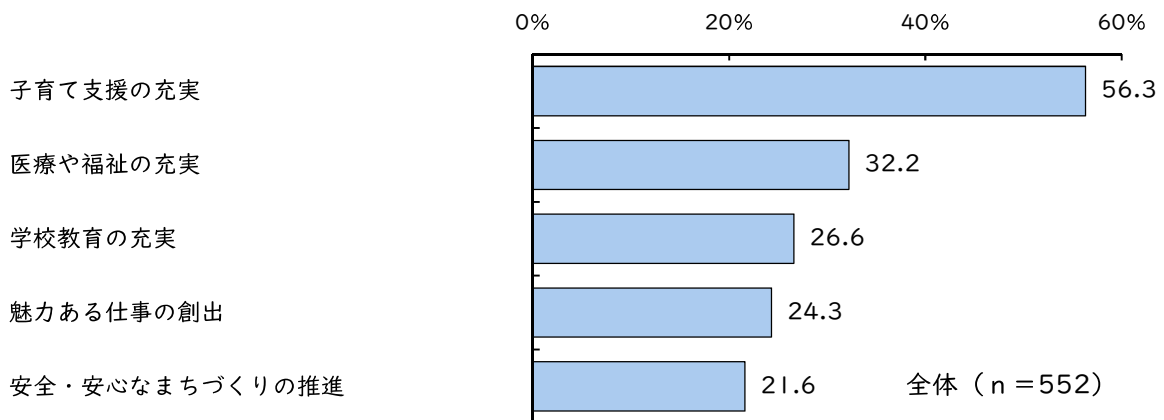
「充実した余暇が過ごせる施設の整備」が40.8%と最も多く、次いで「バスなどの地域公共交通の充実」が36.2%、「若者向けのショップや飲食店が集まる施設の整備促進」が32.4%などとなっています。



※上位5項目のみ掲載

<ソフト面>

「子育て支援の充実」が56.3%と最も多く、次いで「医療や福祉の充実」が32.2%、「学校教育の充実」が26.6%などとなっています。



※上位5項目のみ掲載

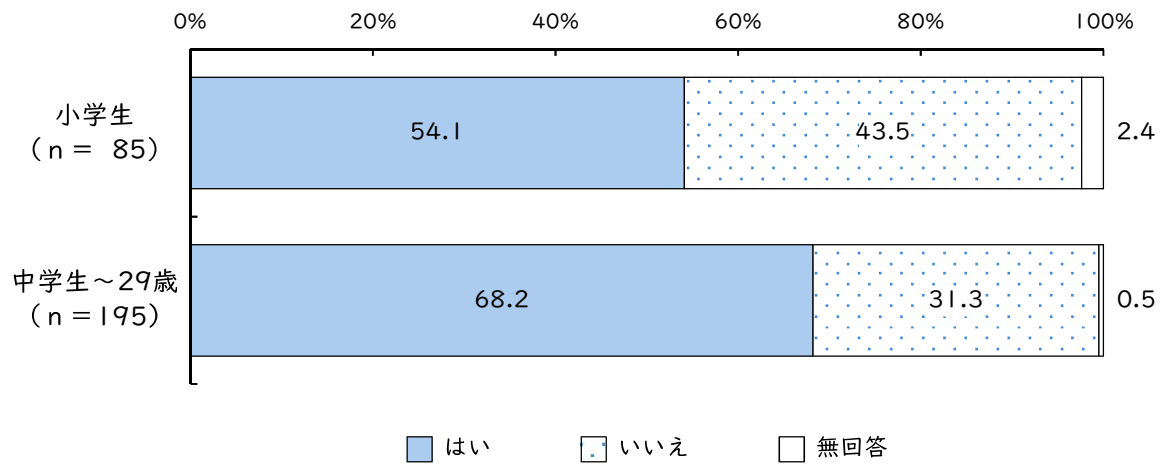
(3) こども・若者の居場所等に関するアンケート調査

調査対象	小学生（200s）、中学生～29歳（800s）
調査日	令和6年10月17日～10月31日
調査方法	郵送配布・郵送又はWeb回収

①家や学校以外に、“ここに居たい”と感じる居場所がほしいか

<小学生> 「はい」が54.1%、「いいえ」が43.5%となっています。

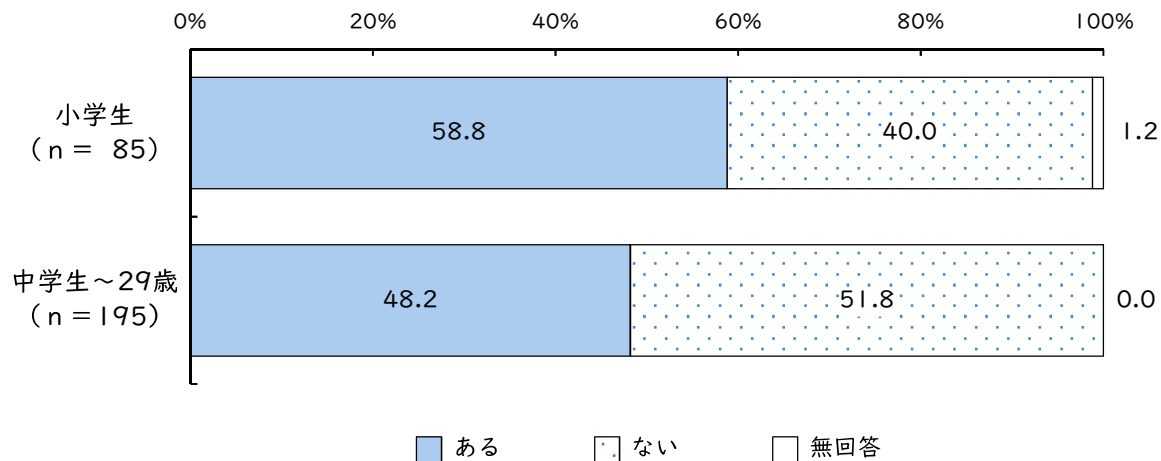
<中学生～29歳> 「はい」が68.2%、「いいえ」が31.3%となっています。



②家や学校以外に、“ここに居たい”と感じる居場所があるか

<小学生> 「ある」が58.8%、「ない」が40.0%となっています。

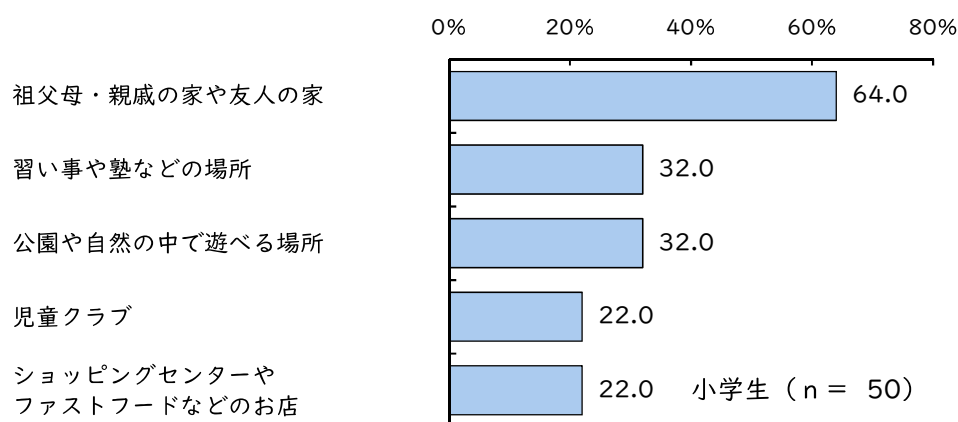
<中学生～29歳> 「ある」が48.2%、「ない」が51.8%となっています。



### ③家や学校以外の“ここに居たい”と感じる居場所（複数回答可）

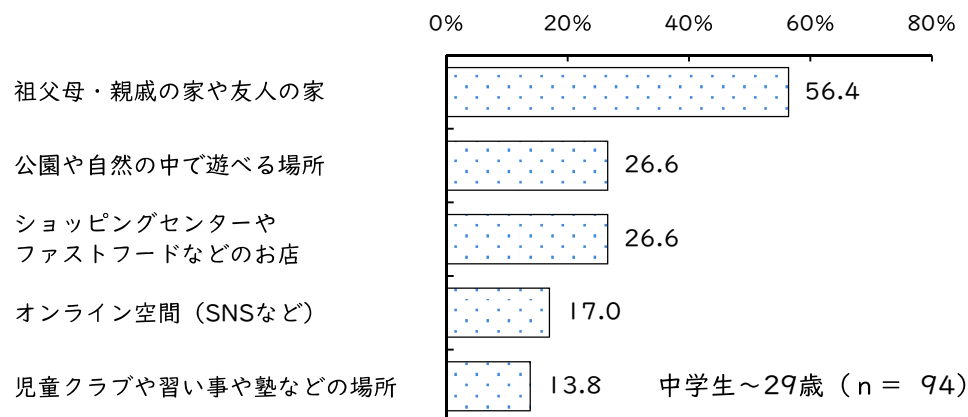
#### <小学生>

「祖父母・親戚の家や友人の家」が64.0%と最も多く、次いで「習い事や塾などの場所」、「公園や自然の中で遊べる場所」がそれぞれ32.0%、「児童クラブ」、「ショッピングセンターやファストフードなお店」がそれぞれ22.0%などとなっています。



#### <中学生～29歳>

「祖父母・親戚の家や友人の家」が56.4%と最も多く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」、「ショッピングセンターやファストフードなお店」がそれぞれ26.6%、「オンライン空間（SNSなど）」が17.0%などとなっています。

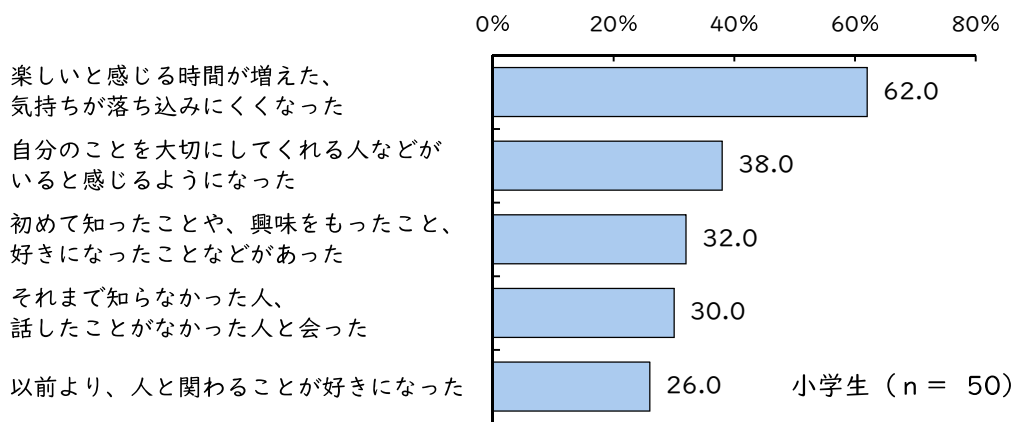


※上位5項目のみ掲載  
 ※居場所がある人のみ回答

④居場所に行くようになって、変わったこと（複数回答可）

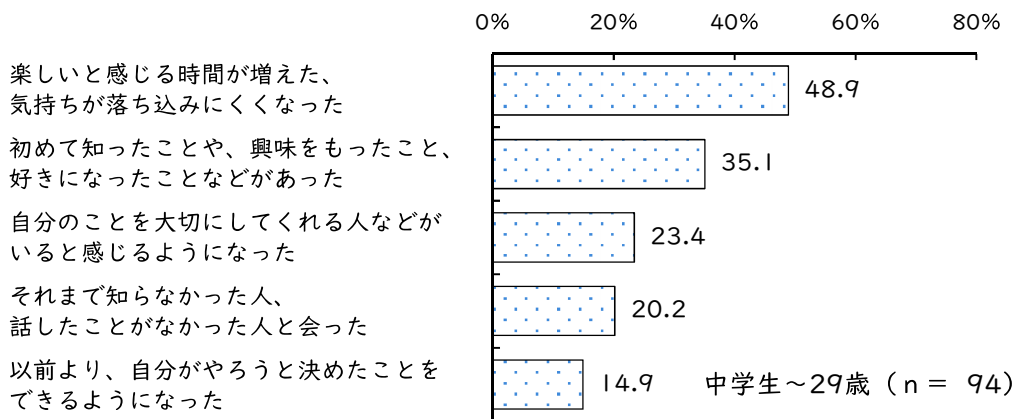
<小学生>

「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が62.0%と最も多く、次いで「自分のことを大切にしてくれる人などがいると感じるようになった」が38.0%、「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった」が32.0%などとなっています。



<中学生～29歳>

「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が48.9%と最も多く、次いで「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった」が35.1%、「自分のことを大切にしてくれる人などがいると感じるようになった」が23.4%などとなっています。



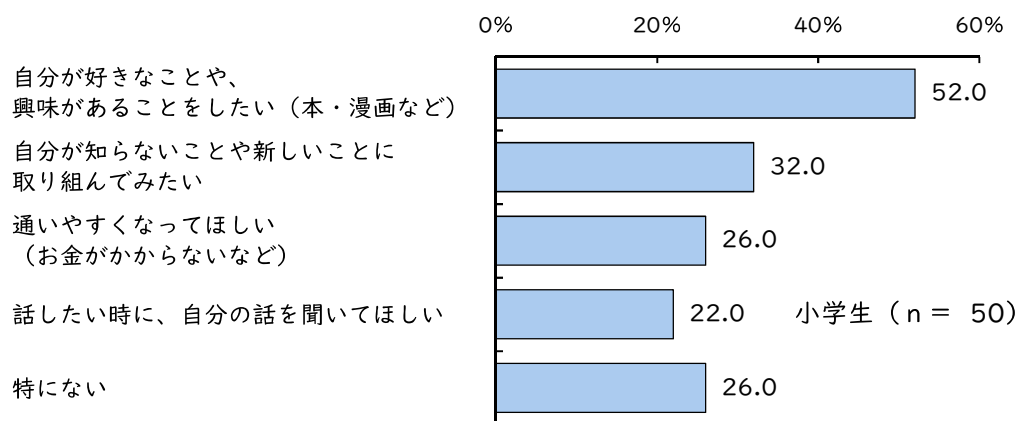
※上位5項目のみ掲載

※居場所がある人のみ回答

⑤居場所でやってみたいこと、もっとこうだったらいいのと思うこと  
(複数回答可)

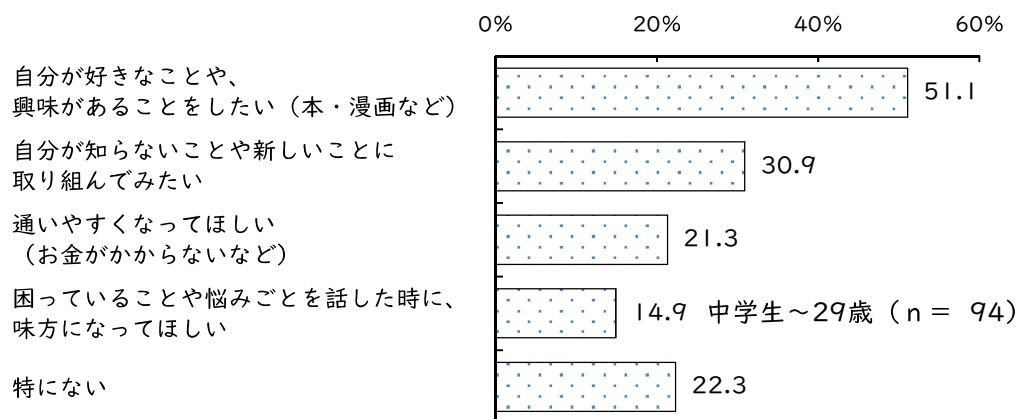
<小学生>

「自分が好きなことや、興味があることをしたい(本・漫画など)」が52.0%と最も多く、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が32.0%、「通いやすくなってほしい(お金がかからないなど)」、「特にない」がそれぞれ26.0%などとなっています。



<中学生～29歳>

「自分が好きなことや、興味があることをしたい(本・漫画など)」が51.1%と最も多く、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が30.9%、「特にない」が22.3%などとなっています。



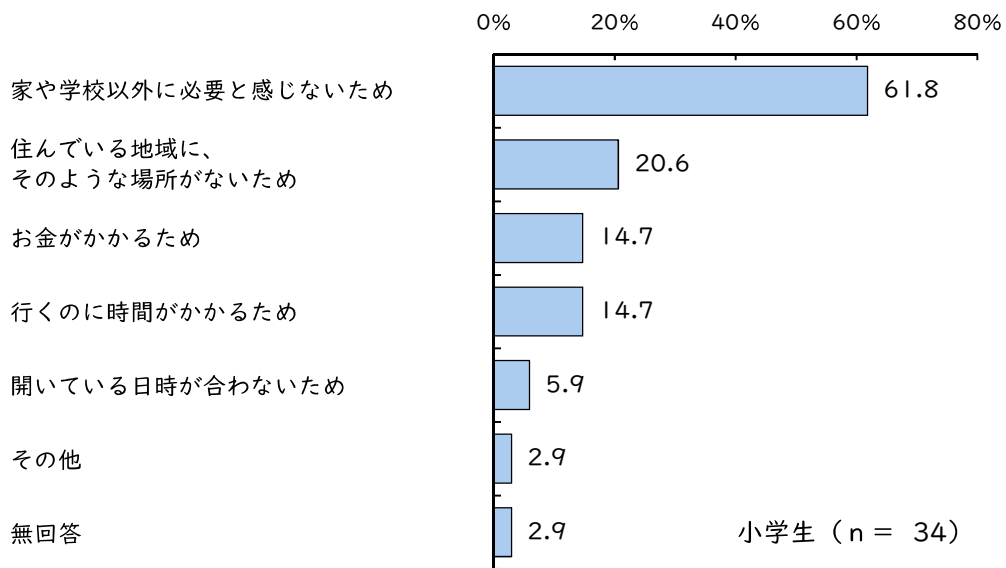
※上位5項目のみ掲載  
※居場所がある人のみ回答



⑥家や学校以外に、“ここに居たい”と感じる場所がない理由（複数回答可）

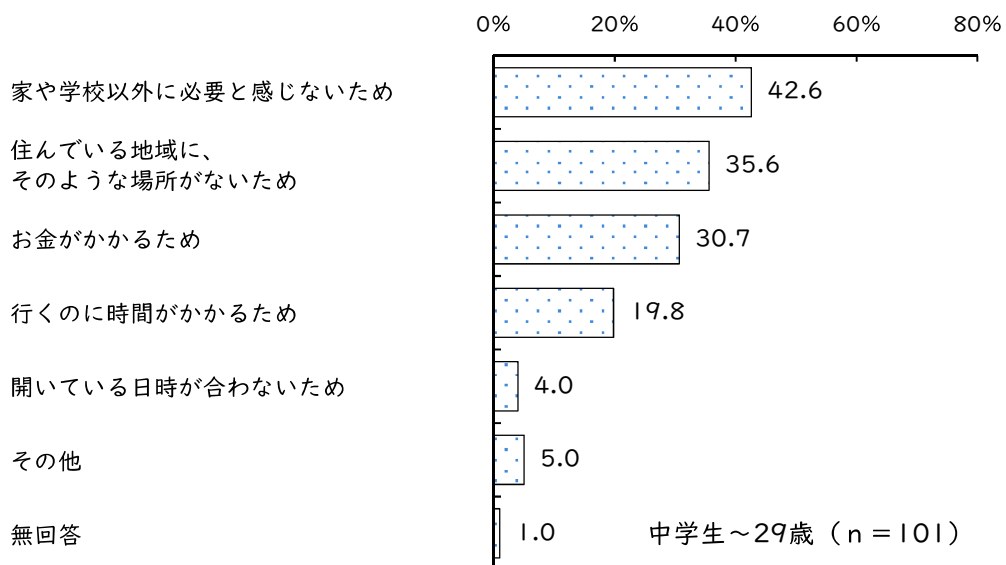
<小学生>

「家や学校以外に必要と感じないため」が61.8%と最も多く、次いで「住んでいる地域に、そのような場所がないため」が20.6%、「お金がかかるため」、「行くのに時間がかかるため」がそれぞれ14.7%などとなっています。



<中学生～29歳>

「家や学校以外に必要と感じないため」が42.6%と最も多く、次いで「住んでいる地域に、そのような場所がないため」が35.6%、「お金がかかるため」が30.7%などとなっています。

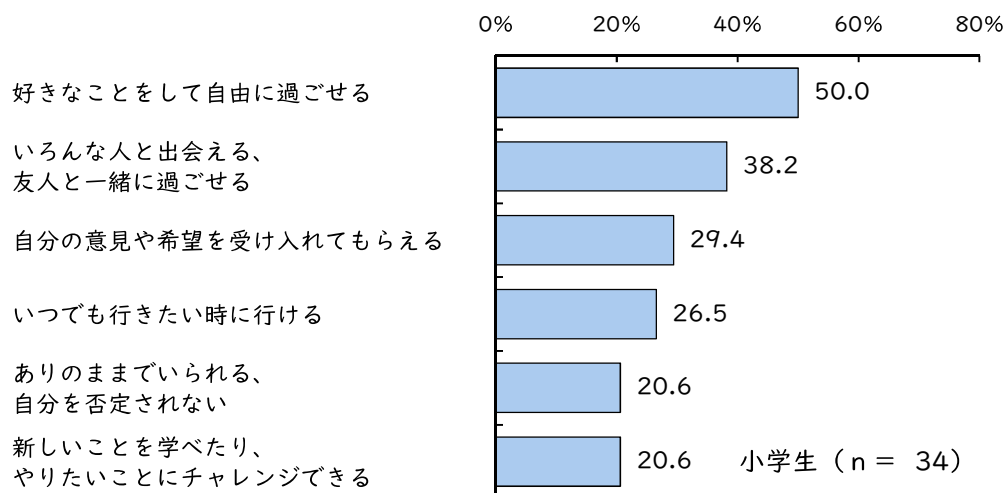


※居場所がない人のみ回答

⑦行ってみたいと思う場所（複数回答可）

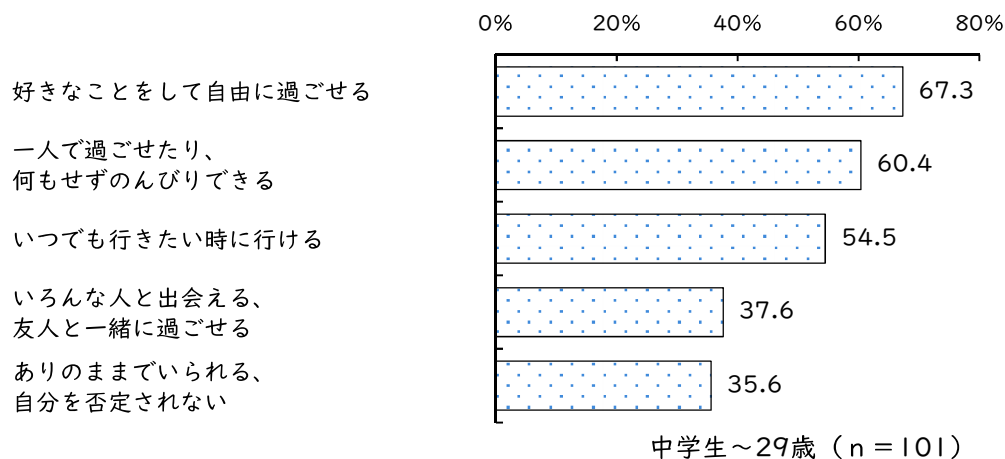
<小学生>

「好きなことをして自由に過ごせる」が50.0%と最も多く、次いで「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が38.2%、「自分の意見や希望を受け入れてもらえる」が29.4%などとなっています。



<中学生～29歳>

「好きなことをして自由に過ごせる」が67.3%と最も多く、次いで「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が60.4%、「いつでも行きたい時に行ける」が54.5%などとなっています。



※上位5項目のみ掲載  
 ※居場所がない人のみ回答

調査対象	居場所づくり関係者（13団体）
調査日	令和6年12月11日～12月25日（ヒアリング：12月19日、21日、22日）
調査方法	郵送配布・郵送回収（7団体）又はヒアリング（5団体） 回収率：92.3%

### ①こども・若者の居場所を立ち上げた背景・経緯

- ◇ 自主的な学習を必要としているのに、親が多忙でみてあげられないという話を聞いたことがきっかけです。
- ◇ 平日日中の居場所や長期休暇中の居場所として、学齢期のこどもを施設で受け入れたことがあったので、地域の寄り合いを主催する際にこどもが参加できる時間枠を設けました。
- ◇ 携わっている放課後児童クラブを利用している児童や卒業生が登校拒否に陥っていることを知り、何とかしたいという思いから立ち上げました。
- ◇ 地域で増加する経済的困難を抱える家庭や社会的孤立、不登校などの課題に対応するために立ち上げられました。
- ◇ こども・若者が安心して集い、夢を語り合える場所や、こども・若者が自分の夢を描き未来に向かって成長できる環境をつくりあげたいと思ったからです。
- ◇ 不登校児童の増加に伴い、居場所を求める声が多かったことがきっかけです。
- ◇ ちゃんと食べられていないこどもの話をよく耳にしたり、コロナ禍で外に遊びに行けずにストレスを溜めている乳幼児の母親がとても多くいたりしていたので、始めました。

### ②富士宮市（又は活動地域）におけるこども・若者の課題

- ◇ 当事者家族が抱え混んでしまうケース、現状に困り感を持っていないケース、支援を受ける側の立場に抵抗があるケースなどがあり、なかなか利用者の増加につながりません。
- ◇ 富士宮市の不登校児の数が500名弱いると言われている割には、受け入れる施設があまりにも少ないと思います。
- ◇ 経済的困難や不登校、社会的孤立に悩むこども・若者が増えています。地域のつながりの希薄化や若者の地域離れも課題だと思います。
- ◇ 就職に向けた支援が不足しています。
- ◇ 社会性の欠如や多世代間の交流不足が問題視されています。

### ③大切にしている理念

- ◇ こどもたちで考えて行動に移すこと、「自分たちでつくるご飯のおいしさや自分でつくること、みんなで食べることの楽しさ」を大切に活動しています。
- ◇ 「やってみせ 言って聞かせて やってみせ ほめてやらねば 人は動かじ」の精神で接するように心がけています。
- ◇ ①安心・安全な環境。②多様性の尊重。③つながりの構築。④自己肯定感の向上。
- ◇ こども・若者の意見を聞き、こども・若者の視点に立ち、こども・若者とともに居場所をつくっていくということです。
- ◇ こどもから高齢者まで、障がいのある人もない人もお互いを尊重して、助け合い支え合い、安心・安全な地域福祉の向上を理念としています。

#### ④こども・若者の居場所づくりを行う上で検討すべき視点等

- ◇ まずは家の外に出たいので、安心して心地良く過ごせる場所を提供してあげることだと思います。
- ◇ 居場所に対するこども・若者のニーズが多様であることを踏まえ、一人ひとりの「いたい」、「行きたい」、「やってみたい」という視点に応じた居場所づくりが重要だと思います。
- ◇ 地域寄り合い処は高齢者の集う場所というイメージが強いので、こども・若者を含む誰でも気兼ねなく通うことのできる居場所が必要だと考えています。
- ◇ こども食堂＝ご飯が食べられないこども、貧困のイメージがあるので、誰でも来ることができ空間にしたいと思います。
- ◇ 長期的な視点から、社会性を育むために地域の大人との関わりや家族以外の大人との関わりを持つことができる機会・場が必要だと思います。
- ◇ こどものニーズの把握や地域への広報活動など、施設を地域に親しみを感じてもらうための努力が必要だと思います。
- ◇ 地域や行政との連携やプライバシーの配慮、スタッフの育成、持続可能な財源の確保も必要です。

#### ⑤連携している団体・機関等

- ◇ 福祉総合相談課、こども未来課（家庭児童相談室）、障がい療育支援課
- ◇ スクールソーシャルワーカー、小中学校・高等学校、特別支援学校
- ◇ 放課後児童クラブ、放課後等デイサービス
- ◇ 社会福祉協議会（県・市）、富士児童相談所
- ◇ 青少年相談センター、就労支援センター、
- ◇ 地域住民、民生委員、ボランティア、子ども会、寄り合い処、NPO法人

#### ⑥連携内容

- ◇ 活動内容や運営の相談をしたり、活動当日の運営に協力していただいています。
- ◇ 対象児童・生徒やその家庭の情報や支援の方向性についての情報を共有しています。
- ◇ 小学生対象のこども勉強会において、退職教員に学習支援をしていただいています。

#### ⑦問題点等

- ◇ 一部の学校にしか周知されていません。例え周知が進んだとしても、現状では受け入れられるキャパシティが少ないので、対応は難しいと思います。
- ◇ 挨拶やチラシを通して各団体や機関に認知されているとは思っているものの、そこからの動きが見られません。
- ◇ 団体間での情報共有が十分でない場合があり、支援が必要な家庭へのアプローチが遅れることがあります。人手不足に加え、活動や連携の意義が地域全体に十分に理解されていないので、協力を得るためにも時間がかかります。
- ◇ 核家族化や世帯規模の縮小、働き方の変化等に伴い身近な地域社会におけるつながりを避ける傾向が見られ、結果として地域における人と人とのつながりの希薄化が進んでいます。

### ⑧今後、連携したい団体・機関

- ◇ 行政機関、市青少年センター
- ◇ 他の地域の居場所、他の子育て支援団体、地域ボランティア団体
- ◇ 保育所・幼稚園・認定こども園、小中学校・高等学校、大学
- ◇ 就労支援施設
- ◇ 医療機関

### ⑨連携内容

- ◇ 課題の共有や課題解決に向けた協力をしたいです。
- ◇ 市青少年センターと連携して、交通の問題で市青少年センターに行けない児童の移動支援や市青少年センター利用の前後の時間帯の受け入れなどを行いたいです。
- ◇ 学校と連携し、不登校のこどもや学習の遅れのあるこどもに対して、フリースクールや学習支援を行いたいです。
- ◇ 児童から成人へ向けた移行や情報共有を行いたいです。
- ◇ 出口支援先（就労支援）としてつながりたいです。

### ⑩居場所を運営することにより、こども・若者に生じた変化

- ◇ 幅広い年代が一緒に、活動することで、世代を超えた関係性が生まれ、参加したこども同士の交流も深まっています。
- ◇ 活動に参加した小学生が、包丁等の道具の使い方を身に付けたり、調理を行うために必要な準備を覚えて一緒に行ったりするなど、生活に必要な力を徐々に身に付けています。
- ◇ 活動内容によっては参加者が食材を持って来てくれることもあるので、家庭での親子の会話や家庭内の交流の促進にもつながっていると思われます。
- ◇ 学校や家庭に居場所がなかった中学3年生が無事卒業し、高校に進学することができました。
- ◇ なかなか家から出られなかった若者が、定期的な寄り合いへの参加を経て、施設の通所に至りました。
- ◇ 不安や孤独感が軽減したり、自分に自信を持てるようになったり、コミュニケーション能力や協調性が向上したりしました。
- ◇ 価値観が多様化するので、安心して生活できるようになっています。
- ◇ 小中学生が参加することで、運営ボランティアとして関わりたいという意識が芽生えています。
- ◇ 参加者同士が仲良くなりました。自分より小さいこどもを気にかけてあげられるようになりました。
- ◇ 年配の地域ボランティアから教わることをこどもが素直に受け止め、自ら実践できるようになってきました。

### ⑪居場所を運営することにより、運営側に生じた変化

- ◇ 普段関わることの少ない幅広い年齢の方と交流することができ、横のつながりがたくさんできたと感じます。
- ◇ 学習ボランティアの先生や市民サークル団体、NPO法人などの色々な人と関わる機会が増えました。
- ◇ こどもの成長や笑顔にふれることで活動に対するモチベーションが上がりました。こどもたち一人ひとりの背景や特性を深く理解できるようになりました。
- ◇ 「年齢に関係なく集う場所づくり」の大切さの認識が高まっています。
- ◇ 来てくれる方との会話やスタッフ同士での準備をととても楽しんでいるので、元気になれます。
- ◇ こどもに対する声かけが、とてもやさしく丁寧になってきています。

### ⑫居場所を運営することにより、地域に生じた変化

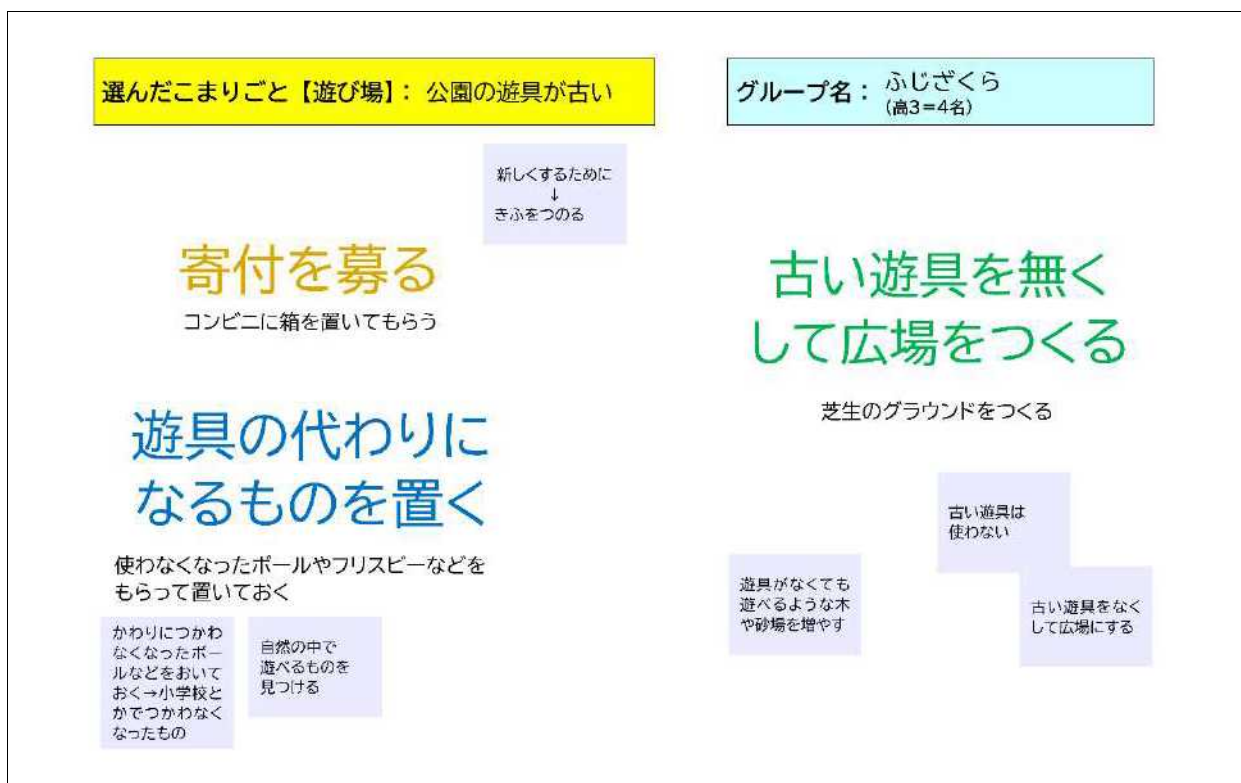
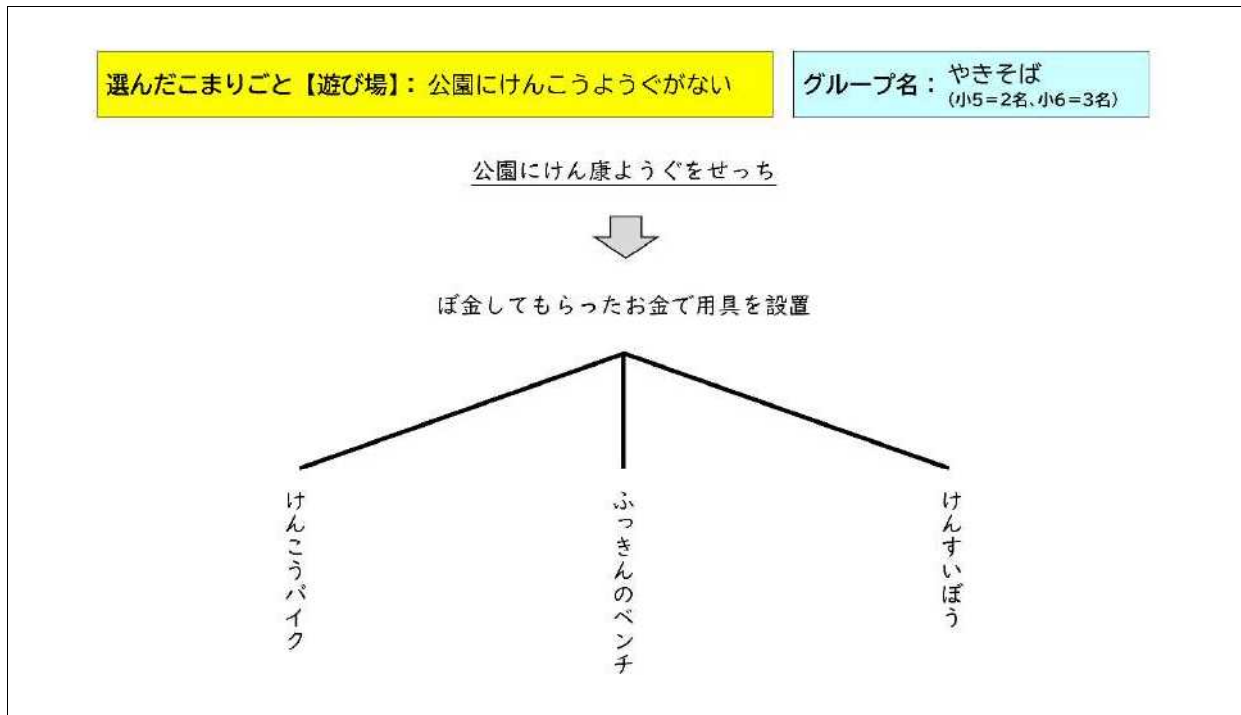
- ◇ 地域の高齢者と定期的に顔を合わせてコミュニケーションをとることができるようになりました。
- ◇ 近所の方も来てくださるようになり、地域が明るくなった感じがします。
- ◇ 地域住民のボランティアが増えました。居場所がある地区からだけでなく、個人や農家の方から食材を提供してもらっています。

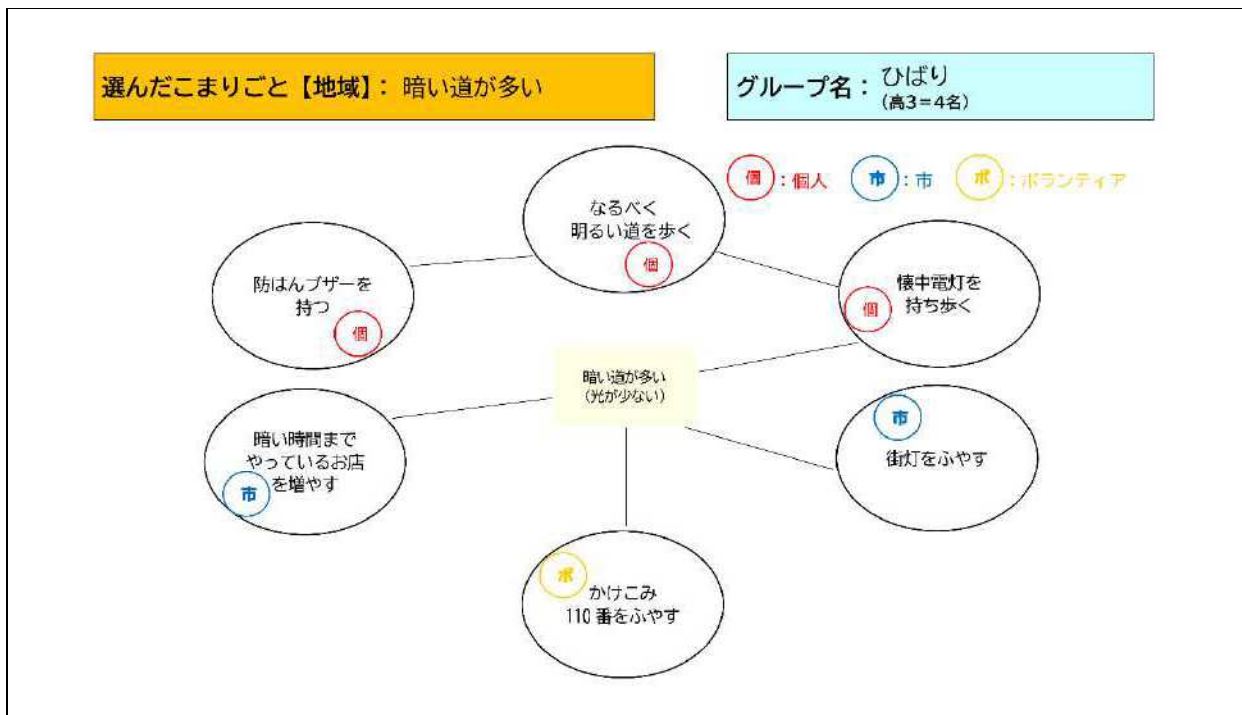
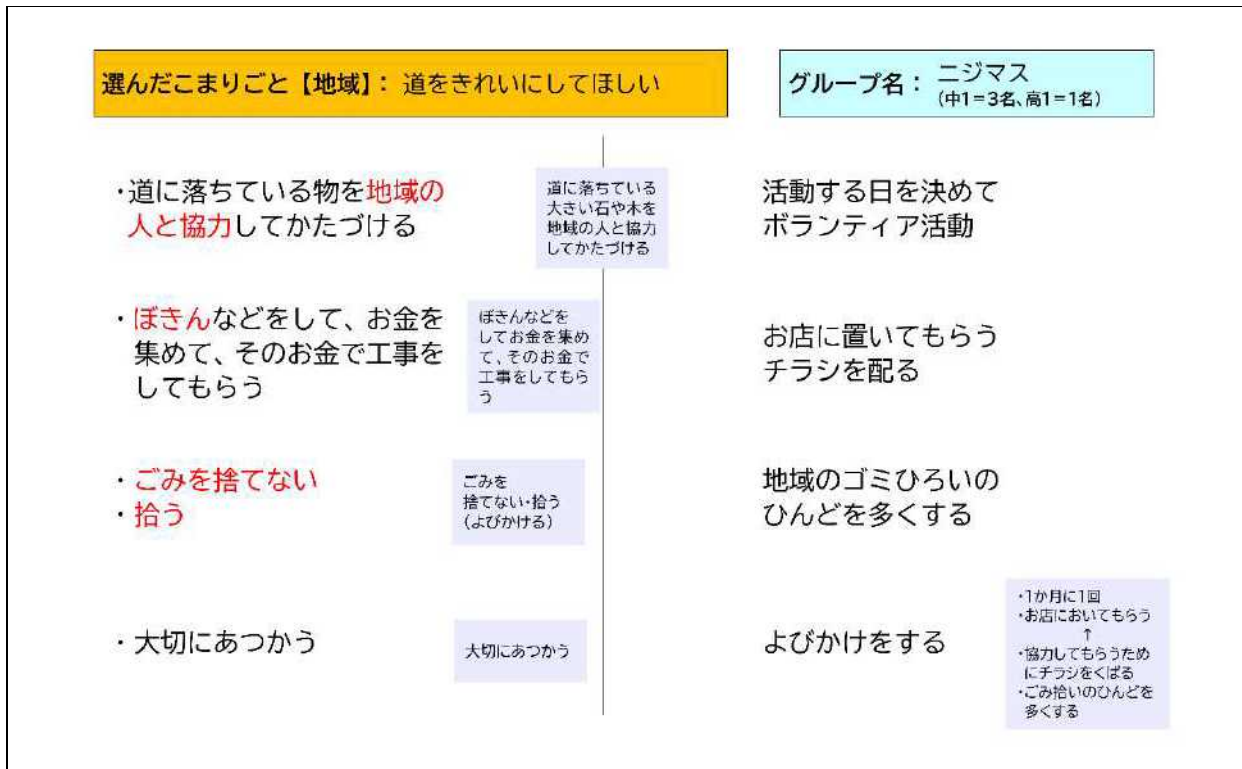
### ⑬居場所を運営する中で抱えている課題等

- ◇ 一旦終了した地域の寄り合い処を当事業所が再スタートさせましたが、地域で他に引き継げる人がいれば引き継いだ方がよいと考えています。
- ◇ メイン事業の利用者に何らかの役割を見付け、社会参加の機会になればよいと考えています。
- ◇ 居場所づくりやフリースクールが文科省の管轄なのか、厚労省の管轄なのか、こども庁の管轄なのかが、はっきりとしていません。
- ◇ 利用者の地域を限定しないのであれば、市街化地域で開設しなければならないという縛りがあります。困っている人に手を差し伸べるだけでも様々な法律や規制・規則があるので、すんなりと支援できないことが残念です。
- ◇ 補助金や助成金が出ないと、施設で働く人に給料が出せません。
- ◇ 必要な資金を安定的に確保することが難しく、助成金や寄附に依存する部分が多いので、持続可能な財源確保が課題です。
- ◇ 居場所の重要性や活動の意義について地域住民の理解が十分でない場合があり、支援や協力が得られないことが課題です。
- ◇ まだ知られていないので、もっと沢山の方に遊びに来てもらいたいです。
- ◇ 孤独なシニアが多いので、シニアとこどもが近くなればよいと思います。
- ◇ 私たちは月1回しか活動ができません。居場所がないと感じているこども・若者の存在が明らかになっているのに、居場所が十分に整備されていない現状です。
- ◇ 毎回屋外にテントやテーブルを出して食事をしているので、雨が降ると困ります。
- ◇ こどもの託児をし、母親がリラックスできるイベントはとても好評ですが、こどもをみるスタッフを確保することが大変です。

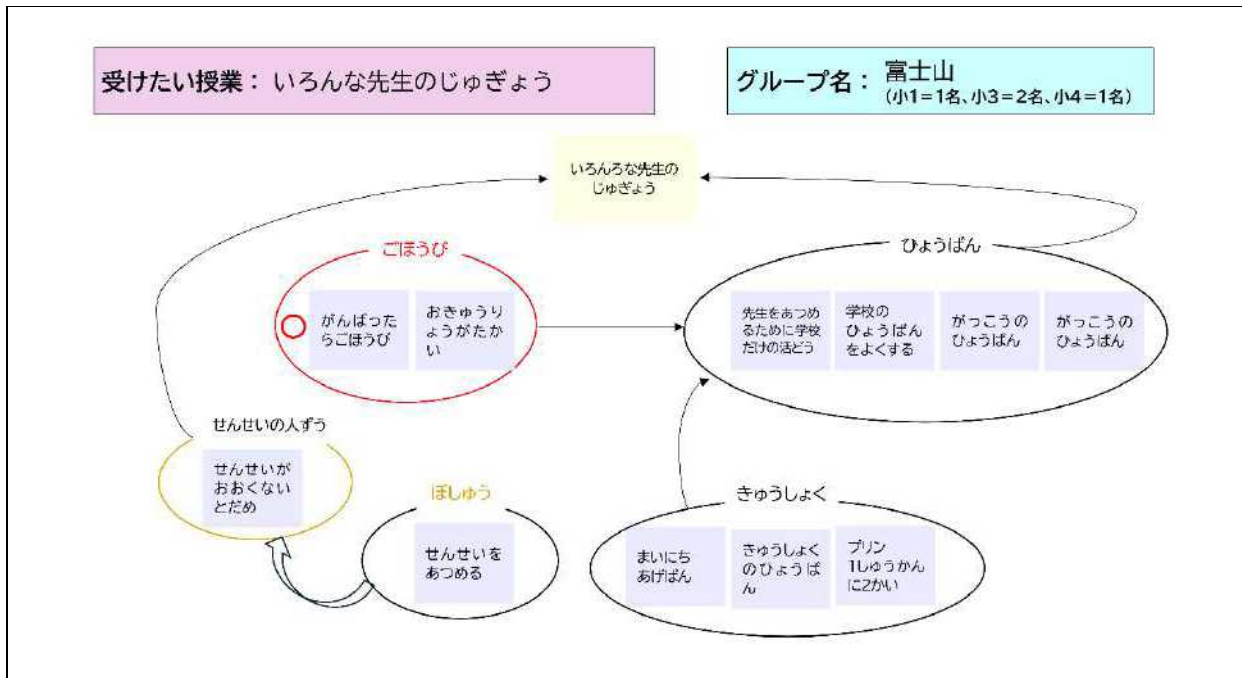
(4) 富士宮市がこんなまちになったらいいな♪ ワークショップ

参加者	小学生低学年3名・高学年6名、中学生3名、高校生13名（合計25名）
開催場所	富士宮市役所 7階
開催日時	令和6年9月7日 9:30~11:30









**受けたい授業： 職業体験** **グループ名： かえて**  
(高2=3名、高3=1名)

<b>①事前学習</b>	自分の就きたい職業の主な仕事を体験する。例)美容師だったらマネキン、ハサミを用意して、ヘアカットをしてみるなど。保育士だったら、保育園に行き子どもと関わる。	自分の興味ある職業にアポをとり、直接見に行く。	地元の企業にアポを取って、体験・見学をさせてもらう。	工場や職場を見学に行く。その仕事の人に話を聞く。
	・自分の興味のある職業を調べる ・企業へ体験見学をしに行く			
<b>②出前講座</b>	様々な職業の人を学校に呼ぶ(学校のことを知らない人)	直接見に行くのが難しいならもぎ体験をする。	職業講和 いろいろな業種を知ること で、どんな体験したいかな などと思える。	
	・様々な職業の人を学校に呼ぶ			
<b>③物品販売</b>	自分たちで作ったものを月1程度で店をあけて販売してみる。			
	・自分たちで作ったものを実際に販売してみる			

## (5) 二十歳を迎える方と市長が語る会

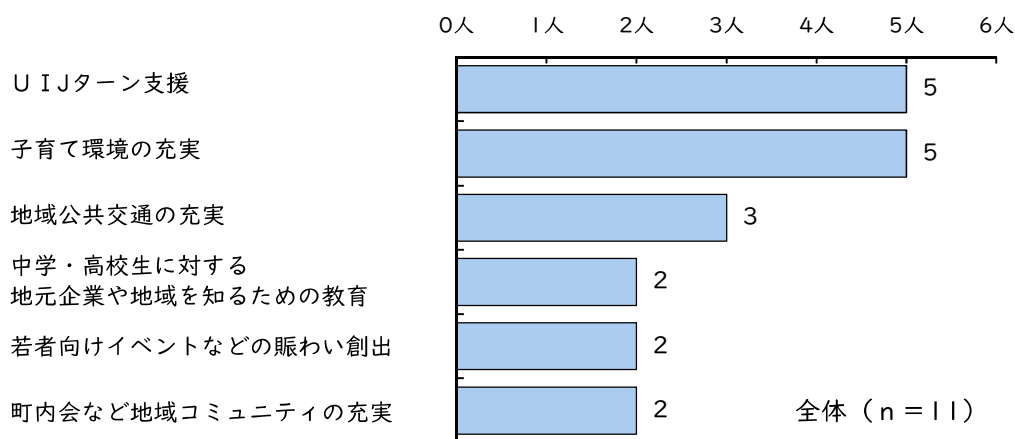
参加者	20歳を迎える若者11名
開催日	令和6年11月2日

「二十歳を迎える方と市長が語る会」は、今年度、20歳を迎える若者が20歳になっての抱負や今後のまちづくりに望むことなどを市長と語る、本市独自のイベントです。

市長と語る前に、「若者の生活や少子化に関するアンケート」の設問の一つである“若者の地元定着を促進するために、富士宮市が力を入れるべきこと”を尋ねたところ、二十歳を迎えるという年齢を背景に、15歳～39歳を対象とした調査結果とやや異なる傾向がみられました。

### 若者の地元定着を促進するために、富士宮市が力を入れるべきこと（2つまで）

「UIJターン支援」と「子育て環境の充実」を選んだ参加者が5人ずつと多く、子育ての他、20歳を迎え、社会人に成り立てや今後数年で社会人として働き始めるために市として注力してもらいたい項目が上位となっています。



※複数人から回答のあった項目のみ掲載

### これからのまちづくりについて

- ◇ 商店街で色々なイベントが開催され、もっと活気あふれるまちになってくれたらうれしい。イベントに行ったり、出店する側で参加したりして、明るく楽しいまちづくりの手伝いをしたい。
- ◇ 商店街を明るく活動的になるように様々な企業を呼び込んで、音楽があふれるようなまちづくりをしてほしい。
- ◇ こどもたちが富士宮市を住みやすいまちであると感じてくれるのであれば、大人になったときに富士宮市のために働き、よりよいまちにすることができると考えます。
- ◇ こどもや高齢者、障がいを持った方々など、すべての人が互いに尊敬しながら毎日を楽しく過ごすことができるまち、富士宮市の地形を生かして自然も大切にしながら豊かに暮らすことができるまちになってほしい。
- ◇ 自然保護、農産業、観光客の呼び込みといったことを継続しながら、もっと住みやすいまち、住んでみたいと感じるまちにするために、地域の方々の交流が盛んなまち、誰もが幸せな毎日を送ることができるまちを目指してほしい。
- ◇ 世界文化遺産などの観光だけでなく、色々な観光場所をつくり、様々な場所からの観光客で賑わうような明るいまちになってほしい。
- ◇ 周囲の自然環境が落ち着いていて、災害対策がなされ、子育て環境が充実していて住み続けたいと思われるまちになってほしく、これらを一緒に達成できるよう頑張りたい。
- ◇ 北部地域の活性化（移動手段の確保、公共交通機関の充実、商業施設の誘致、地域の魅力発信、地域コミュニティの強化）が必要と考えます。
- ◇ 観光と地域産業の発展、そして若者や子育て世代が住みやすいまち（自然と都市機能の融合したまち）になってほしい。
- ◇ 妊娠・出産・子育てに力を入れ、こどもがあふれるまちになってほしい。

### 3 第2期 富士宮市 子ども・子育て支援事業計画の評価

現行の第2期計画の施策体系に沿って、各目標、施策、取組ごとに担当課による自己評価を行いました。その結果、達成度の全体平均点は83.7点となっています。

目標ごとにみると、「3 安全・安心な子育て環境の充実」(取組数=34個)が90.3点で最も高く、次いで、「5 配慮が必要な児童・家庭の支援」(取組数=37個)が88.9点、「1 地域における子育て・子育ての支援」(取組数=36個)が81.6点、「4 こどもと親の健康の確保」(取組数=34個)が79.4点、「2 良質な保育・教育の提供」(取組数=30個)が76.0点の順で、トップの「3 安全・安心な子育て環境の充実」と5位の「2 良質な保育・教育の提供」で、14.3ポイントの差がみられます。

目 標		達成度の平均点 (100点満点中)
1	地域における子育て・子育ての支援	81.6
2	良質な保育・教育の提供	76.0
3	安全・安心な子育て環境の充実	90.3
4	こどもと親の健康の確保	79.4
5	配慮が必要な児童・家庭の支援	88.9
全 体		83.7

#### 【各目標の達成度】

